

8 月 29 日 （ 第 3 号 ）

令和 7 年豊能町議会 9 月定例会議会議録目次

令和 7 年 8 月 29 日（第 3 号）

出 席 議 員	1
議 事 日 程	2
開 議 の 宣 告	4
(一 般 質 問)	
管 野 英美子	4
寺 脇 直 子	17
秋 元 美智子	24
才 脇 明 美	36
(総括質疑)	45
第43号議案 豊能町議会議員及び豊能町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例改正の件	
第44号議案 職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例及び豊能町職員の育児休業等に関する条例改正の件	
第45号議案 豊能町ふるさとづくり基金条例改正の件	
第46号議案 豊能町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準を定める条例改正の件	
第47号議案 豊能町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例改正の件	

第48号議案	豊能町下水道条例の一部を改正する条例改正の件	
第49号議案	豊能町立老人デイサービスセンター条例廃止の件	
第50号議案	令和7年度豊能町一般会計補正予算（第5回）の件	
第51号議案	令和7年度豊能町介護保険特別会計事業勘定補正予算（第1回）の件	
第1号認定	令和6年度豊能町一般会計歳入歳出決算の認定について	
第2号認定	令和6年度豊能町国民健康保険特別会計事業勘定歳入歳出決算の認定について	
第3号認定	令和6年度豊能町国民健康保険特別会計診療所施設勘定歳入歳出決算の認定について	
第4号認定	令和6年度豊能町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	
第5号認定	令和6年度豊能町介護保険特別会計事業勘定歳入歳出決算の認定について	
第6号認定	令和6年度豊能町下水道事業会計決算の認定について	
散 会 の 宣 告	54

令和 7 年豊能町議会 9 月定例会議会議録（第 3 号）

年 月 日 令和 7 年 8 月 29 日（金）

場 所 豊 能 町 役 場 議 場

出席議員 10 名

1 番	池田 忠史	2 番	才脇 明美
4 番	中川 敦司	5 番	寺脇 直子
6 番	管野英美子	7 番	永谷 幸弘
8 番	永並 啓	9 番	小寺 正人
10 番	秋元美智子	11 番	高尾 靖子

欠席議員 なし

本会議に説明のため出席した者は、次のとおりである。

町 長	上浦 登	副 町 長	高木 仁
教 育 長	板倉 忠	政 策 監	大西 隆樹
総 務 部 長	入江 太志	生活福祉部長	小森 進
都市建設部長	坂田 朗夫	こども未来部長	仙波英太郎

本会議に職務のため出席した者は、次のとおりである。

議会事務局長	浜本 正義	書 記	平田 旬
書 記	岡 篤史		

議 事 日 程

令和 7 年 8 月 29 日（金）午前 9 時 30 分開議

日程第 1 一般質問

- 日程第 2 第 43 号議案 豊能町議会議員及び豊能町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例改正の件
- 第 44 号議案 職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例及び豊能町職員の育児休業等に関する条例改正の件
- 第 45 号議案 豊能町ふるさとづくり基金条例改正の件
- 第 46 号議案 豊能町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準を定める条例改正の件
- 第 47 号議案 豊能町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例改正の件
- 第 48 号議案 豊能町下水道条例の一部を改正する条例改正の件
- 第 49 号議案 豊能町立老人デイサービスセンター条例廃止の件
- 第 50 号議案 令和 7 年度豊能町一般会計補正予算（第 5 回）の件
- 第 51 号議案 令和 7 年度豊能町介護保険特別会計事業勘定補正予算（第 1 回）の件
- 第 1 号認定 令和 6 年度豊能町一般会計歳入歳出決算の認定について
- 第 2 号認定 令和 6 年度豊能町国民健康保険特別会計事業勘定歳入歳出決算の認定について
- 第 3 号認定 令和 6 年度豊能町国民健康保険特別会計診療所施設勘定歳入歳出決算の認定について
- 第 4 号認定 令和 6 年度豊能町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について
- 第 5 号認定 令和 6 年度豊能町介護保険特別会計事業勘定歳入歳出決算の認定について

第 6 号認定 令和 6 年度豊能町下水道事業会計決算の認定に
ついて

開議 午前9時30分

○議長（永並 啓君）

皆様、おはようございます。

ただいまの出席議員は10名であります。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりでございます。

日程第1「一般質問」を行います。

昨日に引き続き、順次発言を許します。

質問者は、質問者席に登壇して質問を行ってください。

持ち時間は、質問及び答弁を合わせて50分とします。

管野英美子議員を指名いたします。

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

皆様、おはようございます。6番・無所属の管野英美子でございます。

議長の御指名をいただきましたので、今任期最後の一般質問をさせていただきます。

理事者の皆様、分かりやすい簡潔な答弁をよろしくお願いいたします。

1番目に、区域外通学についてです。

昨日の中川議員の質問と重なるところもあるかと思いますが、令和2年10月会議、令和2年度一般会計補正予算（第7回）、東地区・西地区の小中一貫施設整備事業の設計費用7,478万4,000円、6対5で僅差で可決しました。

昨日の質疑・答弁とも重なりますが、賛成討論の中に、今年度中に子どもを持つ家庭の大胆な増加策と町内1つの校区でどちらの学校にも行ける選択と川上議員は言われました。もう一方は、昨日の中川議員の質問のとおりです。西地区に行ける選択をということです。

7月10日の教育委員会会議で、「地域と

ともにある学校」と5人の委員が決めたように思いました。意思統一というか、私にはそのように見受けられました。

でも私は、春先にこの議会だより136号の10月会議の報告・討論のページのコピーを部長にお渡ししていましたが、このことには一切触れられていませんでした。その理由をお聞かせください。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

おはようございます。

7月の教育委員会会議におきまして、通学区域審議会において学校選択制の御意見があったことを受けまして、通学区域について議論をしていただきました。その中では、教育委員会会議では、東西で徒歩で通学することは難しいこと、部活動については地域展開を考えることも含めまして、通学区域審議会の提言に基づき、町の東地区は豊能東学園、西地区が西学園とするのがよいではないかという御意見が多数でございました。

その教育委員会に先立ちまして私は、管野議員のほうからその議会だよりのコピーを受け取っておりました。令和2年10月の議会の経過については私も存じておりまして、その中では、先ほど管野議員がおっしゃったようなそういう条件付きで賛成をいただいたという事実のほうも存じ上げておりました。

その上で、教育委員会会議の中では、その保護者の方の中にそういう東から西へ通いたい、西から東へ通いたいという保護者がいらっしゃるというところについては、そういう御意見があって賛成したということについては十分認識いたしておきまして、保護者の方にそ

うという思いがあるということにつきまして、教育委員会議の中で説明をさせていただいたんですけれども、そういった議会の中でそういう議論があつて条件付きで賛成があつた、その結果として予算が成立したというところについては、説明をしております。その点につきましては、私のほうは、保護者のことについてばかりがそういうふうに認識が行っておりまして、議会のほうでそういう御意見があつたというところについては認識不足といいますか、ちょっとそういう配慮が足りない部分があつたことについては、大変申し訳なく思っております。この場を借りておわび申し上げます。その議会の御意見が、そういうことがあつたということを教育委員会議の中で申し上げられなかったことについては、申し訳ありませんでした。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

こういう前例とか、もう付帯決議なんか出せないですね。それ守らなくてもいいやと思われていたら、何でもかんでも反対するのがいいとは思いませんけれども、今後、気を付けていただきたいと思います。この意見はしっかりと反映していただきたいと思います。

もう1点。その前に5月29日の通学区域審議会で、「東能勢中だと部活は女子だったら卓球と陸上しかない」、「私立の学校に通うというケースも聞いている」、「西地区からふたば園に通っている人もいる、この人はどこの学校に行くのか」、「いじめがないと駄目、距離が近くないと駄目、特別な理由がなくても保護者・子どもが希望すれば自由に行ける」、この審議会の意見もなぜ伝えられなかったのですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

そういった御意見も含めて、審議会の中では、やはり東地区から西地区に行きたい保護者もいるというところで、通学区域を自由化してはどうかという御意見があつたというところで総合的にお伝えをしたつもりではおりました。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

その「総合的に」という意味が分からないんです。こういうふうに、今私が読み上げたように細かい事例がちゃんとあるじゃないですか。ふたば園に通っている子がいる、西の子がいる、その子はどうするんだというそういう意見もしっかり出ているんですよ。なぜこういうふうに細かく、この審議会の議事録もお見せされなかったんですか。今、私が読み上げたところは、審議会の議事録に載っていることです。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

通学区域審議会の中ではたくさんの御意見が出ましたので、時間の関係もあり、その代表的な意見だけかいつまんでお知らせをしたつもりではございました。その細かいところまでそういうところについては御説明できなかったというのが事実でございます。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

教育委員会を1時間で切り上げようと思っていたんじゃないんですか。なぜ時間の関係でって、こんな大事なことを。事前に

この議事録でもお渡しされたんなら別ですけども、どうしてそうやって「総合的に」とおっしゃるんですか。細かいことを、1件1件こういう意見があるということをなぜ伝えていただけないんですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

時間の関係でと申し上げましたのは、議論をしていただくために説明の時間という形でちょっと申し上げたところでございます。議論については、特に時間を設けずに教育委員の皆様の中で御議論をいただければというふうに考えておりました。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

教育委員さんの意見は分かります。でも、住民の意見を聴かない教育委員会なんですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

もちろん教育委員としては、住民の意見を聴くことは大切だというふうに考えております。

ただ、今回の説明の中では、そういった概要のみを説明したというところでございます。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

このことは文書で残っているので、これお渡しされていますか、5月29日の議事録は。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

議事録については、紙でお渡しはしておりません。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

渡してください。

この議会の二人の意見だけではなくて、私は2小2中が決まったすぐ後に、西の学校に行きたいから要望書を出したいという住民の方から、要望書のたたき台を見せていただきました。秋元議員と私とで、その要望書を添削したことがありました。できたというところで、提出するのをやめますと言ってられました。理由ははっきり聞きませんでしたが、おおよそのことは想像がつかます。大きな看板が立って、学校存続に向けて住民の皆様の大きな動きがあったからだと思います。そして、学校再配置もまだ先のことから、例えば転居するか、そういうことも考えられたからだと思っています。

教育委員会、こども未来部のこのような行動は、私が想像するに、子どもが減るからと思ったのではないですか。最初から複式学級二つになったら統合を検討するということをおっしゃっておられるんですから。

もう1点聞きたいんですが、校区を撤廃する、何が問題なんですか。

普通なら近くの学校に行きますし、親が送迎しないといけない、スクールバスも出すとも言ってもらえていない。行政としても何も負担がないし問題がないと思うんですね。自己責任という形があります。何が問題なんですか。

なんか教育委員さん5人、「地域とともにある学校」というのはよく分かります。私も、光風台小学校のサポーターをもう20

年ほどしていて毎朝24年間、学校の前の交差点に立っています。だから、「地域とともにある学校」というのは痛感しています。自分の子どもが出た学校ですよ。

それは分かるんですが、なぜそうやってこの議論を前向きに進めていただけないんですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

板倉教育長。

○教育長（板倉 忠君）

今、議員の最初の部分について御解答させていただきます。

教育委員会としましては、1小1中が駄目とか、2小2中が駄目とか、学校に優劣があるわけではなく、それぞれの学校の状況、地域の状況に応じてよりよい教育を進めていくのが教育委員会の職務であると思っております。

現在、2小2中で学校を、豊能町としては、義務教育学校2校をつくって、子どもたちのためによりよい教育を進めていこうという状況の中におきましては、今、教育委員会としては「地域とともにある学校」、地域と一緒に学校をつくるコミュニティスクールというのを目指して、令和8年4月開校に向けて取り組んでいるところでございますので、今、議員のおっしゃった、学校側の通学区域の検討の中で、そういうふうな教育委員会としての偏った考えがあるのではないかというふうな御意見でお伺いしましたが、そうではなく、今現在2小2中というところでよりよい学校をつくっていくためにというところで進めているというところを御理解いただけたらと思っております。どうかよろしく申し上げます。

○議長（永並 啓君）

すみません、質問は、何が問題なのかということを確認されています。

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

管野議員がおっしゃいます、何が問題なのかというところでございます。

学校選択制のメリットといたしますと、まず「保護者の学校教育への関心が高まった」、「子どもが自分の個性に合った学校で学ぶことができるようになった」、「学校選択を通じて特色ある学校づくりができるようになった」、「学校の方針を積極的に配信するようになった」というメリットがあります。これは文部科学省の、小・中学校の設置・運営の在り方に関する検討部会からでございます。

ちなみに、同じ検討部会の中で、学校選択制のデメリットといたしましては、「通学距離が長くなることによる安全確保の問題」、「学校と地域の関係の希薄化」、これが学校選択制のデメリットというふうに挙げられております。

保護者の思いというのは、教育委員会としてもすぐよく分かります。やっぱり大人数でなければ心配であるとか、逆に今度学校説明会の中では、大人数になることによって心配であるという保護者の御意見もございました。そういった思いと、やはり通学距離が長くなる、これは多分こちらからお送りになることになると、多分徒歩というのでは無理になるので、公共交通機関もないので、恐らく保護者の方が毎日車で送り迎えになるのかなというふうに思っております。ただ今後、義務教育学校の9年間の中で、毎日の送り迎えというのがやはり非常に保護者の方の御負担になることも考えます。

あともう一つは、先ほど申し上げました、学校と地域の関係の希薄化。先ほど管野議員が、光風台で毎日そういうふうに立って

らっしゃる、そのことについてはお聞きいたしますが、やはりこちらの東地区の方も皆さん毎日のように通学路に立って見守りをしています。

そういった、やはり学校と地域との関係が希薄化する可能性もあるというところも考えて、今の段階では教育委員の皆様は、学校選択制ではなくて、もともと学校は教育委員会が指定をしなければならない、その上で保護者の意見も聴くことができるというところにはなるんですけれども、現在のところは、東は東学園、西は西学園というふうに今のところは考えているというふうにおっしゃってはります。

ただ、先ほど申し上げましたとおり、私のほうで先ほどの保護者の御意見、そこを詳しく伝えているわけではございませんので、そこについてはもう一度議論をしていただければというふうに考えております。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

私のことをそこで出したらあかんじゃないですか、光風台小学校をなくしているのに。学校と地域のって、違いますか。

私、100人からのサポーターをまとめていました。一人残らず使いたかったけれども、ぱらぱら使えなかった人が出ていく、それは本当に残念でした。これから先、新光風台、光風台で学校が遠くなるからって言ってサポーターも減っていくような気がして、それは「地域とともにある学校」なんかなということも私自身、残念だと思うし、今、意向調査をされているんですね。昨日の中川議員の見守り隊のこともありましたけど、「管野さん、次、学校向こうに行ってもやってもらえますか」という意向調査をやっているし、見守り隊という組織がありますので、コーディネーターさんはちゃんと

やっと思っています。

ちょっと話がずれましたが、保護者説明会に来た人だけにアンケートを取ったとのことですが、来ない人はもういいのですか。この先、どのようにされて9月7日の教育委員会に向けて進めていかれるんですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

9月の教育委員会議におきましては、今からちょっとアンケートを9月までに取るというのは非常に難しいかとは思いますが、そういった保護者の御意見、これについては、やはり説明会で参加してその場で意見を申し上げるのは難しいであるとか、そういった潜在的な御意見が恐らくあるであろうということにつきましては、説明をさせていただければと思っております。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

先ほど5月29日の通学区域審議会で、東能勢中だと部活はっていう云々ありますよね。それもしっかりと伝えていただけるんですか。これはPTAさんの意見だと思うんですね、私も傍聴してましたけれども。この方、部活はほかにやりたいという人はアンケートにも書くタイミングもないしってということなんですけど、それはどうなるんですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

通学区域審議会での御意見につきまして、改めて議事録をお配りした上できちっと説明をしたいと思っております。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

20分もかかってしまいましたので、次の質問に参ります。

2番目の、教育全般についてです。

7月初旬に個人懇談があつて、児童生徒たちは短縮授業となっていました。小学生は給食を食べた後に集団下校をしますが、中学生は授業が終われば即下校。この暑い中、歩いて東ときわ台のほうまで帰ってきました。クラブ活動のある生徒はお弁当を持参されたと思いますが、光小で小中一緒に勉強しているので私も分かりましたし、保護者の方から、この遠いところを暑い中帰ってきたわということを伺いました。この現状をどのように考えておられますか。

ちなみに、今週の水曜日からは、中学生は給食、小学生は3時間で下校しています。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

西地区の中学校では、校時、学校の時間の兼ね合いで個人懇談を午後1時半から行っているために、教員が生徒たちと給食を喫食し、併せて栄養指導を行うと、午後からの懇談等に影響するため、従前から個人懇談がある日は午前授業とし、給食を食べずに帰宅することとしていました。

一方、小学生は、全校で5時間目終了以降に懇談を実施しておりますので、給食を喫食してから帰宅することとしておりました。

令和8年4月に義務教育学校が東西に開校し、前期学部から中期、後期学部が同じ場所、同じ学校として授業を行うことから、現在のところ、校時表を見直して、定期考査であるとか学校行事以外については、全年同様給食を食べる方向で検討をして

おるところでございます。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

給食を食べさせない理由は分かりましたけれども、子どもたちは先生と一緒に給食を食べないと食べられないんですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

基本的には給食の中で栄養指導を行うというふうになっております。ただ、全ての給食時間に先生が立ち会って給食を食べているかどうかについては、申し訳ありません、現在のところ把握はしておりません。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

学校のことを知らなさ過ぎです。栄養指導というのは、放送で「今日の給食は」って言うてはりますよ。だから、担任の先生がいらっしゃらなくても、中学生ぐらいになったら自分で御飯食べられませんか。

今回はこういうことになりましたけど、西学園になったとき、東学園になったときには、しっかりと給食を提供してあげてください。給食無償化ですからね。しっかりとやってください。

次の質問に行きます。

留守家庭児童育成室の運営についてです。

これは6月定例会議の質問でもやりましたので、私は2回目です。

支援員は疲弊されていますね。地域の力を借りてはどうかと提案しましたが、夏休みはどのような状況でしたか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

夏休みの地域ボランティアにつきましては、2名の方にお楽しみ企画を実施していただきました。1名の方には化学実験教室の実施、もう1名の方には皮財布の制作です。

子どもたちには大変好評でしたので、今後も地域の方の力を借りながら、育成室の内容の充実を図っていきたいと考えております。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

この質問をして、やぶ蛇になってしまったんです。私のグループの科学のところへ早速声がかかりました、うまいなと思いましたけれども。ほかにも読み聞かせのボランティアの人も入ってて、計6回と聞いているんです。

何でそんなことが分かったかといったら、田んぼのお世話をされている佐久先生から「稲穂ちゃんとなってるか」というメールが来たんです。それを見に行行って写真を撮って、学童そこにいてはるわと思って見に行行ったんですね。そしたら、6年生が浮いているんです。6年生は、ちょっかい出したらあかんから言うて2人で将棋みたいなんをやってて、1・2年生はブロックをやったり楽しそうにやっていましたけど。

学童の支援員さんに聞いたら、6回来てもらいましたよって喜んでらっしゃったんです。もう少し把握してくださいね。

では、夏休みに閉庁日とか、学校はあります。今年は8月12日から15日でしたが、育成室にはなぜ夏休みがないのでしょうか。休みたいと言ってます、支援員さん。そして交代で休むにも、みんな休みたいけれども、午前と午後でかなりの人数の動員をされています。なぜ休まないのですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

小中学校におきましては、学校に児童生徒が来ないということが前提にありまして、閉庁日を設定しています。これは、昨今の教員の働き方改革の観点から閉庁日を設定しているところでございます。

育成室につきましては、民間企業や自治体など、夏休みの設定や保護者の夏休みの取得方法が多様化する中で、一般的なお盆休みについても、やはり両親と共に就労されている御家庭もあるというところで、そのニーズに対応するため、現在のところ夏休み、閉庁日という期間は設けていないところでございます。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

支援員さんが交代で休むことに大変困ってらっしゃることは聞いておられますか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

今現在、どこの留守家庭児童育成室もぎりぎりの人数で運営していただいております。その中で特に夏季休業中は学校がないこともあり、2回のローテで回ってより一層人数が必要となっていて、留守家庭児童育成室に勤務していらっしゃる皆さんについては、御負担をおかけしていることについては承知をしております。

今後、改めてまた人員の確保に向けては進めていきたいというふうに考えております。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6 番（管野英美子君）

それでは年末年始、冬休みの開室はどのようになっていますかというのと、もう1点、引っ越しがある春休み、これは大丈夫ですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

年末年始の休みにつきましては、留守家庭児童育成室の条例の施行規則におきまして、12月29日から1月3日までの6日間は閉室日としております。また、来年3月の育成室の移転のときには、育成室の開室と移転作業を同時並行というのは非常に難しいと考えておりまして、今現在から保護者の御理解を得て、現在、臨時休室日を設ける方向で調整をしておるところでございます。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6 番（管野英美子君）

働く人の条件というか、しっかりと見ていただきたいと思います。

そして次に、3校の育成室が一つになります。定員が100名。

会計年度任用職員には6月に意向調査をされたとのことですが、雇用やその体制はどのように考えておられますか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

三つの育成室が一つになるというところですが、運営の形につきましては今、一つの教室で全員が集合するのではなくて、少数団に区分して分けて運営をする予定で今現在、調整をしておるところです。

育成室の人員については、見守り体制に

過不足が生じないように、現在、支援員の確保に努めているところでございます。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6 番（管野英美子君）

今ちょっと疑問に思ったんですけど、通告にはないんですが、教えてくださいと言うたらあきませんけど、何人に一人支援員がつくんですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

すみません、現在ちょっと正確な人員については把握しておりません。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6 番（管野英美子君）

支援員の意見とかをよく聴いているんで、④の質問を先にさせていただきます。

とよの西学園の教職員・支援員・来訪者の駐車場が東ときわ台小学校のグラウンドのようです。予算も可決しています。砂利を敷いて約700万円の予算がついています。

でも最近になって、保護者からも学校運営協議会でも、遠過ぎる、気の毒だとの意見が出ています。ふれあい広場のテニスやグラウンドゴルフ場を東ときわ台小学校のグラウンドに移して、駐車場を確保してはいかがですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

ふれあい広場につきましては現在、住民の方々の施設として住民の方々も利用しておられます。職員の方々に御負担をおかけするということについては、重々承知しております。ただ、住民の方が利用する施設

を職員が利用するということは現在、町としては難しいという判断で、現在のところ、暫定的に東ときわ台小学校のグラウンドに駐車をしていただく方向で検討しているところです。

今後につきましては、また公共施設の再編に伴い、職員の駐車場についてもどうするかについては、その中でまた考えていきたいと思います。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

テニスの方とかグラウンドゴルフの方とか、場所を提供しませんじゃなくて、子どもたちのために、子どもたちの先生方のために、サポーターのために、東ときわ台に移っていただけませんかということも言えないんですか、この町は。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

東ときわ台小学校につきましては現在、職員の駐車場というふうに検討しておるところです。学校の跡地の考え方については、今も町全体で考えておるところでございます。

ただ今回につきましては、ふれあい広場につきましては、やはり町の真ん中、中心地にあるというところで、住民の方々が利用する施設として今現在は考えているところでございます。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

ときわ台駅から歩いての距離と、東ときわ台小学校からの歩いての距離がほぼ一緒かもしれませんが、何のための車通勤なんですか。

私は、テニスコートをなくせとかって言ってません。あんな都会の真ん中でテニスをするんやったら、ちょっと横へ寄ってえなっていう、そんな優しさもないんですか。こっちかもしれません、公共施設再編のことも絡むんで。ちょっとやってあげませんか。

それから、私たちサポーターの例えば来週、再来週、ミシンの指導があります。もしそういうときにミシンの指導の補助や読み聞かせの人、放課後教室など、また学校支援事業のサポーター、放課後のサポーターの人、教育委員さんの視察もみんな東ときわ台小学校に駐車して歩くんですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

来訪者の方々につきましては、少しの数ではございますが、新しい西学園の中に来客用の駐車場を設けているところでございます。また、例えば児童生徒の体調が悪いときとか保護者の送迎がある場合、その場合については、総合駐車場も利用できるというふうに考えております。

ただ、大規模な例えば運動会であるとか、そういったときには総合駐車場は難しいのかもしれませんが、基本的には来訪者につきましては、そういう形で運用ができればというふうに考えておるところでございます。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

教育委員会が、こども未来部は机の前で勝手に決めたっていうか、そういうふうに見受けられるんです。先生方も承知されていますか。そこから歩きますよっていう先生ばかりですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

教職員の方も含めて説明はしております。皆さん、全ての方々が御納得いただいた上でということではないというふうに感じております。当然のことながら、我々としてもそれについては大変御負担はおかけしているというふうには感じておりますが、暫定的にはこういう形で今現在のところは運営したいというふうに考えております。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

働き方改革と言っておきながら、です。夕方になったら、洗濯物を入れなあかんわとか買物して御飯作ってって思う、そういう時間ですよ。先生も一生懸命働いているから、5時に「はい、さよなら」っていう先生は、そんなにいてはらへんと思うんです。結構残ってはりますよね、夕方行っても残ってはります。やっぱり時間を急いけたら、気の毒だなと思うんです。

公共施設再編のほうで伺いたいんですが、例えば今、テニスをされている方、グラウンドゴルフをやっている方、そこら辺を駐車場にして、それを東ときわ台に移ってもらうということは可能ですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

大西政策監。

○政策監（大西隆樹君）

おはようございます。

西地区の公共施設再編については今、まちづくり全体を含めて検討しておるところでございます。

ふれあい広場につきましては、町の中心であるということを考えますと、やはり駐

車場のみで使うというよりは、やっぱり複合的にいろいろなことに活用していくということが重要ではないかというふうに考えています。その時点で、ほかの施設を考案したりということも出てきますので、そういった空いてくる土地を利用していろいろな、今おっしゃったような設備も検討していくことになろうというふうに、現段階ではそういうふうに考えておるところです。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

壊して土地が空くということは分かるんですが、その前に建てなあかんし、壊す前にどっかへ建てなあかん。それからのことっていったら、あと5年ぐらいかかるんじゃないんですか、過疎債を使って。それまで東ときわ台から歩けって言うんですかね。

私が心配しているのは、今補正予算にも入っています学童の業務委託だと、人が足りなくなっているというのは確かなんですが、学童の支援員さんは7時まで仕事をして、そこから歩いて東ときわ台まで車を取りに行ってしまう、そういうことを想像すると、私はとてもつらい仕事だなと思うんです。

だから、もう一度考えていただけませんか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

教職員の駐車場の問題につきましては、教育委員会のほうがいろいろ検討いただいて、町のほうと一緒にいろいろ考えさせていただいた上で、議会のほうに東ときわ台小学校のほうのグラウンドを整備して使うという形で提案して、お認めをいただいたということがございます。

我々、そのところをどうするのかというところの議論をかなりさせていただきました。管野議員がおっしゃるように、町の雇っている学校の先生以外で支援員とか、ほかに学童の方とかいろいろいらっしゃる、そういう方もやっぱり東ときわ台から歩いてもらうことになるのかというところは我々も心配してしまして、それによって継続を希望されないとか、そういうところがあると困りますので、そういうところもいろいろ考えたんですけれども、やはりそのテニスコートであつたりふれあい広場というところが、どうしても住民さんが今使ってらっしゃる施設で、我々教職員であつたり職員がそこにとめることについて、やはり住民サービスとしてどうなのかというところを懸念しておりました。

我々町職員は今、西公民館の横の駐車場を借りてやっていますけれども、じゃあ、教職員の方にそこにとめていただいて、職員が東ときわ台にとめたらそれでいいのかと、そういうわけでもございませんので、そのところをいろいろ考えた中でいろいろ検討した結果、やむなく先生のほうにちょっと御無理をお願いするという形に今させていただいております。

その遅い時間帯をどうするのかというところは課題ではありますが、そこはちょっと今後、実際に運用するときに、どういうふうにすればいいのかということも含めて検討はさせていただきたいと思えます。すみません、よろしくお願いいたします。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

すみません、先ほどの育成室の基準のお

話ですが、子ども40人に対して支援員2人、こちらのほうが基準といいますか、補助金の対象となっております。

実際には、子どもの様子を踏まえまして、それ以上の人数を配置しているところがございます。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

今の人数の答弁は、また総括質疑でさせていただきます。

やはりごそつと支援員が減るかなと思っているんですね。

テニスコートを使用されている人に理解を求めるといことはできないんですか。子どもたちのために、学校の先生の駐車場として暫定的にここを貸してくださいというわけにはいかないんですか。

いずれ西公民館や保健センターは潰されると思うんですね、新しい建物が建ったら。そこに移るまでに5年間ありますということも先生方は知らないと思いますし、そのところを理解は求めることができないんですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

私も教育委員会としても、最初はやはりふれあい広場でできるかどうかということについては検討いたしました。テニスコートを潰さなくても、今ちょうど入り口から入ってすぐのところで、教職員も留守家庭児童育成室の職員の方も大体皆さんとめられるであろうということで、ちょうど右側というか、オアシス側のところで敷地はいけるということになっております。

ただ、やはりそこについても住民の方が御利用していらっしゃる、ときわ台の方が

夏祭りとかしているというところも含めて、やはりそこについては町の真ん中で住民の方々が基本的には利用している施設ということで、先ほど副町長からも答弁を申し上げたんですけれども、住民の方の施設として、教職員についてはしばらくの間、御理解をいただければというふうに今のところ方針で進めているところでございます。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

今の考え方だったら、もうずっとテニスコートとグラウンドゴルフはあの場所であるということじゃないですか。検討していただけないかということです。子どもたちのためにです。検討してください。要望しておきます。

③の質問に戻ります。

中学校のクラブ活動についてです。

コーチとして来てくださっている人はいますね、卓球部とか。今後のクラブ活動の在り方を伺いたいところですが、国の指針とかもありますので、地域移行とおっしゃいますけれども、その準備はできているんですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

部活動については、先ほど議員がおっしゃったとおり、地域移行という方向で考えています。

今現在、準備を進めているところではございますが、例えば学校開放をしていただいている方々、今、土日であるとか、夜の体育館を使ってらっしゃる方々、それから文化的な活動については、例えば公民館の利用団体であるとかに今後アンケートを取って、そういった活動が中学生の部活動と

いう形での活動も可能なのかどうかということについては今後、尋ねていきたいと思っております。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

遅いかなと思うんです。とどろみの森学園は、もう契約をなされたということです。

とよの西学園のグラウンドにテニスコートができることで、グラウンドが狭くなった。以前、打球がネットを超えたために、バッティング練習や試合等は小学校のグラウンドでされているということ。このときに、福岡議員が「清原みたいな人やったらどうすんねん」って言い合ったけど、そこは中田翔やろって私は思ったんです。今やったら大谷翔平ですけどね。

さらにこの狭くなったグラウンドで、野球部やソフト部の練習ができるんですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

西学園での野球部・ソフトボール部の活動につきましては、基本的にバッティング練習等々についてはバッティングケージを整備し、そういった形でバッティング練習ができるような方向で今現在考えているところです。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

残念ですね。こんな田舎の学校で、野球部の練習が校舎のすぐ近くでできないということはとても残念ですが、その点もしっかりと伝えてあげてくださいね。やっぱり遠くへ飛ばしたいというのがバッターの気持ちだと思います。

時間がなくなってきましたので、過疎債

についてちょっと伺います。

何を心配しているのかというと、返済のことです。寺脇議員がこの後、財政調整基金が枯渇するという質問をされます。小寺議員も、令和12年に枯渇されるとおっしゃっていたと思います。

かつて人口が2万6,000人いたときのことでしょうが、ユーベルホールやシートスに35億円ぐらいかかったと伺っています。

そんな中で過疎債を利用して公共施設の再編なのですが、7割が国が持ってくれるといういいお話ですが、若い人があまり入ってこない、町税収入が減少する中で、公共施設再編に幾ら使えるのか。前の答弁では東7億円、西22億円との答弁がありますが、そんなもので今、物価高騰の中でできるのでしょうか。ワークショップに参加してる友達は夢を語ってくれましたけれども、「それってお金は大丈夫なん」と言ったことがあります。

シミュレーションされているのであれば、お聞かせください。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

入江総務部長。

○総務部長（入江太志君）

お答えいたします。

公共施設再編の基本方針の中では、財政支援措置として過疎対策事業債を発行していくという、それを見ていくというような内容を策定しております。

しかしながらその活用に当たっては、財政支援措置があることに期待して、施設の規模や機能が必要以上に過大となり、あるいは後年度に大きな財政負担が生じる点や、起債の償還に当たる財源確保のため、事業の見直しが必要となる可能性もございます。

また、全国的に建築資材の値上がり、あるいは労務費の高騰等が生じておりますの

で、現在のところ財形推計の中でも、一応見て推計をしておりますが、今後ともいろんな変動要素がございますので、その財政推計を随時更新しながら、無理のないような計画をしていく必要があるかと思えます。

先ほど7億円、22億円という事業費も検討の中で示しておりますが、その辺についても、その辺の財政推計を見据えながら、どのような財源措置が講じられるのか、将来の財政負担が過大にならないようには見ていきたいと思っております。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

以上で終わりますが、答弁書を作っていたいただいた理事者の皆さん、全部できなくて申し訳ございません。次がありましたら頑張りたいと思います。

ありがとうございました。

○議長（永並 啓君）

以上で、管野英美子議員の一般質問を終わりますが、昨日の中川議員の質問のときもそうですが、選挙権年齢及び成年年齢の引下げにより、子どもたちへの主権者教育が必要と言われ、文科省も小中学校向けの主権者教育指導資料も作成している中、当の教育委員会が住民の代表である議員の発言をただの一つの意見かのように軽んじて扱うことが理解できません。

二代表制を実現するために、議会には賛成・反対討論、修正案、付帯決議など様々な権利が与えられています。しかし、これでは正常な議会運営ができませんので、何らかの対応を考えさせていただきます。

以上で、管野英美子議員の質問を終わらせていただきます。

この際、暫時休憩いたします。

再開は10時半とさせていただきます。

(午前10時20分 休憩)

(午前10時30分 再開)

○議長（永並 啓君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、寺脇直子議員を指名いたします。

寺脇直子議員。

○5番（寺脇直子君）

それでは、議長より御指名をいただきましたので、これより一般質問を始めます。

今回の一般質問では、まず初めに道路の整備について、町の考えを伺います。

先日、希望ヶ丘の住民より、道路のアスファルトが剥がれ砂利が出ており、全体的に道路の劣化が見受けられる状況だと御相談を受けております。そのため、散歩中に劣化している道路に足を引っかけてけがをしている住民もいて、非常に危険な状況にあると伺いました。

その後、住民と道路の現場の状況について確認しましたが、全体的にやはり劣化が見受けられる状況にありました。

道路の劣化や老朽化により、道路のひび割れや道路のへこみに足を引っかけたり、歩行者や自転車の通行に十分な安全が確保されているとは言えない状況にあります。

また、子どもから高齢者、車椅子を使用されている住民、障害者の皆さんが安心して通行できる道路環境の整備は、大変重要だと考えます。

このような状況を踏まえ、道路の修繕、また大雨での浸水被害防止と通行する上での安全衛生の向上など、ふだん生活する上で町民にとって身近な道路は大変重要な役割があり、まちづくりの基盤で急務な課題と考えます。

道路や橋梁などのインフラは、町民の生活など、ふだんの生活を営む上で不可欠な社会基盤であり、まちづくりの上でも重要な役割を果たすと考えます。そのため、劣

化した道路の中長期的な計画、本町にとって大変重要な仕事であると思います。

箕面市など他市においては、中長期的に道路の整備を計画的に実施しておりますが、先日、希望ヶ丘の道路の劣化について、住民から御相談を受けておりますが、本町のまちづくりを進める上で、道路の整備についてはどのような位置づけにあるのか伺います。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

坂田都市建設部長。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

おはようございます。

それでは、お答えいたします。

まず本町の道路については、議員のお話があったとおり、町内全域で路面が経年劣化している状態というのは、本町のほうでも把握しております。

限りある予算の中、劣化した道路を計画的に更新するために、本町のほうでは、平成30年度と平成31年度の2か年で道路の路面の路面性状調査というものを行っておりまして、この調査を踏まえ、舗装面の劣化状態を10段階で評価しております。

その調査結果を受け令和元年度、同じ平成31年度後半のほうですね、各路線の重要性を考慮して、舗装修繕に関する町道舗装の個別施設計画というものを策定しておりまして、現在はこの計画に基づき施工しております。

なお、優先順位等もありまして、舗装修繕は交通量の多い幹線道路からということになっておりまして、この計画の進捗ですが、予算の制約、国費の内示の状況などから、進捗率は計画の約50%を若干切っているという状況でございます。このような状況の中ですので、議員御指摘のその住宅地の中の街区道路まで修繕が至っていないと

というのが今の現状でございます。

このため、局所的に劣化が激しい箇所につきましては、また交通に支障がある箇所については、先日も議員等の御連絡を受けて直営で修繕させていただきましたが、ああいう形で住民さんの通報、あとパトロール等を受けまして個別で対応しておるところでございます。

今後も、財政状況上こういった状況が続くことにはなりますが、道路管理者として引き続き、道路の安心安全の確保に努めてまいりたいと考えております。

○議長（永並 啓君）

寺脇直子議員。

○5番（寺脇直子君）

現在、幹線道路を中心に舗装を進めているということですが、住宅地の道路も非常に、私も希望ヶ丘の道路全体的に住民の方と一緒に回りましたけれども、かなり劣化が激しいところがありまして、そこに足を引っかけたけがをされているという住民の方もいらっしゃいますので、当然私もそのような御相談を受けたところから、現在対応しているところですが、現在、幹線道路からということ、それは当然そうですし、予算のこともありますので、当然西地区も住宅地の中は劣化しているところがあると思いますので、全部を一気に進めることは難しいと思うんですが、住宅地の道路についても劣化が激しいところから優先的に、住民の方から通報があったところもそうですし、パトロールをして取組を進めていってほしいと思います。

道路とかインフラ整備は、本当にまちづくりの中で重要な課題だと思いますので、町民の皆さんがふだん安心安全な生活を営む上で非常に重要なことですので、劣化の激しい道路から、町民の皆さんの目に留まって納得できる形で道路整備を進めてほし

いと思います。

それでは、次の質問に移ります。

次に、遠方地域のスクールバスの導入について質問します。

近年、全国的に人口減少や学校の統廃合が進む中で、遠距離通学を余儀なくされる児童生徒が増加しております。本町についても、少子高齢化や人口減少により、来年の4月開校の義務教育学校まで遠距離通学を余儀なくされる児童生徒がおられる状況にあります。

その中で、私自身も以前より、西地区の新光風台の遠方地域の保護者より、近年の猛暑の中、タブレット端末が入っている重いランドセルを背負いながら通学することについて、熱中症や迷子の心配などがあり、遠方地域の児童生徒のスクールバスの導入について相談を受けております。

このような地域の実情に合わせた柔軟な対応が求められると思いますが、今後のスクールバスの取組について伺います。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

小中学校への通学距離につきましては、法令によりまして小学校がおおむね4キロ、中学校が6キロ以内というふうにされております。

教育委員会としては、とよの西学園の通学区域にこれらの距離を超える区域がないことから、基本的に徒歩による通学、場合によっては公共機関を利用するという方向で検討しておりましたが、新光風台地区におきましては、今までの光風台小学校からとよの西学園として整備する旧吉川中学校までの通学距離が長くなるということで、特に低学年については通学にかかる負担が大きくなるため、スクールバスを運行して

ほしいとの要望を各方面からいただいたところでは。

教育委員会といたしましては、町長部局とも協議し、特に低学年児童につきましては心身にかかる負担が大きいこと、小学校が近いから新光風台に居住したが、義務教育学校整備に伴い通学が遠くなるというまちづくりの観点も含めて、スクールバスを導入することといたしました。

運用面の詳細につきましては、これから決定するところですが、現在のところ、乗車対象は新光風台地区の１・２年生、バスの利用料を徴収する。乗降場所につきましては「新光風台の阪急バスのバス停」、若しくは「光風台小学校に集合する」の２案について検討しているところです。

今後、開校準備委員会の通学路部会等で御意見を伺い、詳細について決定をしたいと思っております。

○議長（永並 啓君）

寺脇直子議員。

○５番（寺脇直子君）

全国的にもスクールバスが導入されている地域というのは、少子化による統廃合の事例が多く、安全な登下校という観点からも、町としても独自の遠距離通学距離の基準を設けていく、スクールバスを導入していくということは非常に重要なことだと思います。

通学路の安全を確保するためには、集団下校もありますし地域の見守り、そしてこのスクールバスの活用というのは非常に有効な取組だと思います。

それで、これは東地区なんですけれども、８月１３日午後６時過ぎに、東地区の子どものたちの通学路の走落神社付近で熊の目撃情報がありました。昨日の午後８時頃、希望ヶ丘の入り口付近でも熊の目撃情報があったんですけれども、この東地区の子どもた

ちの通学路の安心安全について、熊の目撃情報が出ているんですけれども、現在どのように対応されているのか伺います。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

昨晚、そういった通報があったことを受けまして学校のほうでも検討いたしまして、本日は集団下校、それに教職員のほうが付き添って帰るという対応を現在は進めているところでございます。

○議長（永並 啓君）

寺脇直子議員。

○５番（寺脇直子君）

最近、全国的にも熊の目撃情報のニュースが報道されていまして、最近本町でも東地区のあちこちで目撃情報がかかなり増えている状況になっておりますので、特に子どもたちの通学路付近で目撃されたということは非常に心配しておりますので、広く熊が目撃されたことも当然保護者の皆様にも注意喚起していただいて、安全安心のために、集団下校もそうですけれども、教職員の付添いといっても、それはそれで心配はしますけれども、熊の目撃情報が最近よく寄せられておりますので、安全安心に向けて取り組んでほしいと思います。

それでは、次の質問に移ります。

次に、地域公共交通について質問します。

地域における交通は、まちづくりや福祉・教育、ショッピングセンターなど、地域のあらゆる課題に結びついていると思うんですけれども、そのため、交通政策は地域課題を捉えた形で、地域の課題と結びつけて交通政策に取り組んでいくことが重要だと思うんですが、このまちづくりや福祉・教育など関連する地域課題とともに今後、地域の交通政策づくりを行っていった

ほしいと思います。

交通政策を検討していくに当たって、本町は65歳以上の高齢者が人口の半分ですけれども、その高齢者と地域の未来を担っていく子どもたちまで安心安全で快適な交通政策について行政と学校、保護者、地域の皆様と連携しながらこれを支えていくことが大事なことだと思います。

現在、全国的に運転手不足の問題を抱えております。本町においても阪急バスが減便になっている状況です。今後、通勤・通学、買物、病院など、住民の移動手段のニーズを把握して新しい公共交通の在り方など、現在どのように検討しているのか伺います。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

入江総務部長。

○総務部長（入江太志君）

お答えいたします。

本町では、路線バスの廃止・減便後の新たな公共施策につきましては、深刻化する運転手不足により、既存の交通事業者との新たな交通施策を行っていくのは困難な状況にありますので、今年の6月議会の補正予算でお認めいただきました、運転士確保対策事業の施策に取り組んでまいりたいと思っています。

また、コミュニティ・カーシェアリングの導入につきましても検討を進めていきたいと思っています。

コミュニティ・カーシェアリングにつきましては、地域公共交通の競合とならないよう、また、地域公共交通を補完する移動手段として、道路運送法の許可又は登録を要しない運送であり、地域住民が主体となって住民同士で支え合いながら、ボランティアによる輸送サービスを行うものでございます。

運転手不足が本当に深刻な状況でございまして、なかなか運転手の確保ができない、その中で運転手の確保の代わりにコミュニティ・カーシェアリングというふうなものを今後、昨日に一般質問でもございましたが、住民周知、あるいは担い手の発掘をしていき補完ができないかと、このような取組も進めていきたいと思っています。

○議長（永並 啓君）

寺脇直子議員。

○5番（寺脇直子君）

本当に運転手不足という問題は、これまでにこれほど深刻化している問題じゃなかったもので、本当に今までにない問題であると思っています。そのため、今、部長の答弁がありましたようにカーシェアリングとか、本町においてもこの状況に対して何かしらのやっぱり対応とか、今後対策をしていくことが求められてくると思います。

今日は、富山県朝日町の「あさひまちバス」というコミュニティバスの事例を紹介したいと思います。

この「あさひまちバス」は、2012年に町内に移動を便利にするということで、これは京都大学が公共交通の再構築と町の活性化に向けた研究の一環として、富山駅方面から到着する全ての列車に、到着してから5分以内にバスと接続させ、平日68便から378便の大幅な増便によって、町内の移動を便利にしようという社会実験を実施して、「あさひまちバス」が運行しました。バスの運行と鉄道の接続を図って、このバスの運行は地元のタクシー会社に委託しています。

この事例の特徴は、地域の課題である高齢者の買物や通院などの高齢者対策と県立高校の再編問題を背景として、高校生の輸送、観光振興、まちのにぎわいなど、町バスの運行がまちづくりの課題を解決すると

ということが運行目的となっています。

自治体が地域の課題を背景にその地域の交通を確保し、町バスが地域の課題を援護していくという、公共交通を中心にしたまちづくりの政策を明確にしており、利便性を高めるダイヤづくりなどのコンセプトで、利便性を高めると必ず利用が増えるという社会実験になっています。

交通事業者と沿線自治体を含めて利便性を高めると、コミュニティバスを中心とした交通体系を小さな町でも実現できるということが、この朝日町の「あさひまちバス」の事例から学ぶことができると思っています。

このような事例も参考にして今後、本町も新しい交通政策の在り方について検討してほしいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

入江総務部長。

○総務部長（入江太志君）

お答えいたします。

今、議員がおっしゃった事例で御紹介いただきました富山県の朝日町、ちょっと今聞いたところですので詳しくは存じ上げないんですが、本町とその朝日町の交通事情がどうなのかというのはちょっと分からないんですが、本町の場合は今、京都タクシーあるいは阪急バスが、一部ですけれども町内を運行しておる事業者です。

全くの交通空白地というんですか、そういう事業者が全く撤退して何もないということでしたら、本町もいろいろと施策が取り組みやすい、費用もかかるんですけど、いろんな選択肢が出てくると思うんですが、本町の場合は交通事業者がまだおりますので、その辺の競合というんですか、その隙間を縫ってといいますか、そこを交通利便性を高めるような施策を打っていかないと、

競合して撤退というますます悪循環に陥るというのも懸念されるところです。

なので、朝日町のところも参考にまた見させていただきますが、確かあそこ、私が前、デジ田が入ってて、何かそういうような取組もされてたのかなという印象はあるんですけど、それと費用がどれだけかかっているのか。本町の財政規模はそんなに大きくはないので、そういうサービスに耐えられるだけの財政基盤があるのかどうかも含めて、その辺はちょっと勉強させていただきたいと思います。

○議長（永並 啓君）

寺脇直子議員。

○5番（寺脇直子君）

これは参考に紹介させていただきましたけれども、現在、運転手が不足している、減便になってますます利用者が減ってくるということで、これも悪循環がどんどん深刻化していくのではないかとということでこの朝日町の、利便性を高めると利用が増えるという社会実験を行っているこの事例を紹介させていただきましたので、全てが本町に当てはまるとは思いませんが、参考にしてほしいと思います。

それでは、次の質問に移ります。

次に、持続可能なまちづくりに向けて質問します。

本町は、大規模開発された頃に比べますと、現在は少子化、高齢化、また生産年齢人口も減少している状況です。その中で現在は、財政調整基金を取り崩して財政運営をしており、今後この財政調整基金が枯渇するのではないかと懸念されております。

今後、持続可能なまちづくりに向けてどのように取り組んでいくのか伺います。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

入江総務部長。

○総務部長（入江太志君）

お答えいたします。

少子高齢化や人口減少などにより町税の減少傾向に歯止めがかからず、地方交付税等の依存財源の占める割合が本町では年々大きくなっており、本町の財政状況は、国の財政措置次第で大きく左右される構造となっております。

また、国・府の補助金等の有効活用に努めているものの、予算編成時で財源が不足し、財政調整基金を取り崩さなければ予算編成を行うことができない状況にあります。今後においては、小中一貫校の施設の整備や公共施設再編、本庁舎整備などの大規模な施設整備を考えますと、現在の本町の財政規模及び財政状況では、財源不足が懸念されるところではあります。令和7年度の当初予算におきましても、小中一貫校施設整備事業や基幹系システムに係る標準化に要する経費などにより、財政調整基金の取崩し額は8億円を超える状況となっております。

本町は人口分布が東西に分かれている地理的要因、また、人口急増期に整備した公共施設をそのままの施設規模で運営していることから、人件費や施設の維持管理費等の運営経費が大きな負担となっておりますが、今後は学校施設再編に伴う3小学校の統合、あるいは西地区認定こども園の民営化、公共施設再編等により人件費や維持管理費を圧縮するなど、本年7月に策定しました豊能町の新たな行財政改革推進計画に基づき行財政改革を進めていながら、財政調整基金の取崩しをできるだけ抑え、将来にわたり持続可能な財政運営に努めたいと考えております。

○議長（永並 啓君）

寺脇直子議員。

○5番（寺脇直子君）

本当に財政調整基金の取崩し額も、今ちょっとと投資もしていることもあって8億円ほどということですが、これはやっぱり持続可能なまちづくりを目指す上で、やはり全庁的な行財政改革というものに取り組んでいく必要があると思います。

今年の6月議会に新たな行財政改革という案をお示しいただいてますけれども、その中で、やはり学校も来年に6校から2校になります、そのほかにも様々な全庁的に行財政改革に取り組むプランというものを示しておられますので、それを待たなしの状態で進めていってほしいと思います。

また、昭和40年の人口がかなり大規模に増えたときに比べますと、もう現在、本当に少子高齢化と生産年齢人口も減少している状況ですので、そのときの公共施設の規模をここまで人口が減っている中で同じように維持しているというところも、やはり限界が来ていると思います。まず、今の人口規模に合わせた公共施設の再編ということで、維持管理や人件費についても見直しをしていってほしいと思います。

それでは、次の質問に移ります。

次に、自治体施設・インフラの老朽化・防災対策のための地方債活用について質問します。

現在、公共施設の老朽化が本町では進んでおります。先ほど質問しましたけれども、財政面や人口規模からも、今の財政状況と人口規模に合わせた東西の公共施設の再編に向けて現在取り組んでおります。

公共施設の再編とかワークショップとかいろいろされておりますけれども、公共施設の除却費について、公共施設等適正管理推進事業の令和7年度の主な改正点について、この公共施設の集約化や複合化事業に「集約化・複合化等に伴う除却事業」を新

たに創設されております。

公共施設の計画的な管理を進める上で、維持管理、更新などにかかる財政負担を軽減・平準化するために行う公共施設などにおける「集約化・複合化事業」、「長寿命化事業」、「転用事業」、「立地適正化事業」、「除却事業」を対象としたこの事業の地方債の活用について検討してはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

入江総務部長。

○総務部長（入江太志君）

お答えいたします。

本町は現在、公共施設再編をもう進めてございます。公共施設再編に関する基本方針では、過疎債を財源として活用していくということがそこにはうたってございます。その過疎債は充当率が100%、後年度の交付税措置が70%と非常に有効な起債でございます。

国の令和7年度の過疎対策関係予算として、過疎債を5,900億円とされております。過疎指定団体は、これは令和4年度4月当初時点ですが、885団体であることから、市町村ごとの明確な借入上限額はないものの、国の補助金を除き、整備事業に必要な財源全てには過疎債を充当できないことも想定をする必要がございます。

今後、事業に取り組むに当たりまして、将来にわたり持続可能な財政運営が行えるよう、今後の過疎債の措置状況も踏まえ、必要に応じて事業の見直しなどを行うなど、慎重な対応が求められます。

また、過疎債以外の地方債である公共施設等適正管理推進事業債は、充当率が90%、後年度の交付税措置が、財政力にもよりますが30%から50%と有利な地方債であることから、公共施設再編における集約化、あ

るいは複合化事業や、それに伴う既存施設の除却事業にも活用を検討していきたいと考えてございます。

○議長（永並 啓君）

寺脇直子議員。

○5番（寺脇直子君）

公共施設の再編につきまして、過疎債もどこまで充当できるか分からないということで、公共施設適正管理事業債は公共施設の集約化・複合化とか除却費用を対象にしておりますので、これは本当に有利に活用したほうが財源的に負担が軽減されるのではないかと期待されると思います。しかし、慎重に取り組んでほしいと思います。

先ほども財政問題の質問をしておりますけれども、特にこの公共施設再編につきましては現在、豊能町内の東地区も西地区も公共施設が非常に老朽化しているということで、この老朽化した公共施設をまとめていく、人口規模に合わせて集約していくことで、維持管理費や人件費などの財政面での負担が軽減されると思いますし、本町は現在、過疎地指定されております。今後は小中一貫校施設整備や公共施設の再編、本庁舎の整備、老朽化した道路やインフラの更新など、多額の財政負担が想定されております。その中で、できる限り町の財政負担を軽減していく形で取り組んでほしいと思います。

老朽化した施設を、除却費用がかかるということで、この先何十年も除却せずにそのままの状況で維持していくということも非常に困難だと思います。過疎債も全てに活用できるわけではありませんし、この老朽化した施設を除却することで、本町は西地区と東地区で駐車場が足りないという課題がありますので、この老朽化した建物を除却して、その跡地を駐車場に活用すると

いうこともできると思います。

ですので、過疎債も全てに活用できるわけではありませので、この公共施設等適正管理推進事業債の公共施設の除却などの地方債も活用して、今後、持続可能なまちづくりに向けて取り組んでほしいと思いますので、よろしくお願いします。

以上で、私の質問を終わります。

○議長（永並 啓君）

以上で、寺脇直子議員の一般質問を終わります。

この際、暫時休憩いたします。

再開は11時15分といたします。

（午前11時05分 休憩）

（午前11時15分 再開）

○議長（永並 啓君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、秋元美智子議員を指名いたします。

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

秋元です。

議長より御指名いただきましたので、一般質問をさせていただきます。

私のほうでもなるべく端的な質問に注意したいと思いますので、理事者の皆様もどうかよろしくお願いいたします。

では最初に、義務教育学校の水泳授業の方向性についてお尋ねいたします。

先の6月議会で、教育委員会のほうに義務教育学校の水泳授業についての質問をさせていただきました。一番気になっていたのは、1年生から9年生までどのように水の深さを調整するかというふうな、そういう意味で質問させていただいたところ、台を使ってしたいと。それは人手も要ることですし、それであるならば、シートスを使ったらどうかと提案させていただきました。

それに対して教育委員会のほうからは、

実はそこも併せて考えてはいるという御答弁でしたので、もうその結論なり方向性なりが出たかなという意味で今回、質問に挙げさせていただきました。これにつきましてはいかがでしょうか。シートスのほうでの授業ということは可能性はあるでしょうか。

これは教育委員会のほうとしても、屋外プールは今は熱中症など、実際やけどしたりなんかありますので、そういうことも随分懸念されていたようでしたので、その後、検討は進んでいるかなという期待を込めてお尋ねいたしますので、よろしくお願いします。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

議員がおっしゃられたとおり、今現在、夏場の気候が暑いために、夏場の気温が上昇のためにプール授業ができないであるとか、また、プールの事故により子どもたちの命が失われる事件が発生したり、漏水により教員の責任が問われるなど、プールの管理についてきめ細かな対応が求められているところです。

一方、本町の場合、シートスのプールを活用する場合、学校からシートスへ移動する時間がかかりますので、その授業の時間が確保できるかというところで、学校と御意見をお聴きしました。現在も光風台と吉川小学校のほうでシートスのプールを活用しているところです。

逆に今、2時間を1単位みたいな形でプールの授業をしているところなんですけれども、プールに行くともうすぐそのまま授業を開始できるために、逆にかえって子どもたちのテンションがきちっと授業に合わせてプールという形になるので、授業の時

間については、かえって確保できるのではないかなというふうに学校のほうから御意見をいただいたところでございます。

一方、プールの維持に係る費用につきまして、東西の両中学校の水道代、これは令和5年度の実績のデータなんですけれども、水道代が約80万円、薬品であるとかプールの管理に係る費用が約15万円、あとは電気代等々がかかるところです。

また、現在の両中学校、これは今後義務教育学校になるんですが、そのプールがいずれも老朽化しているために全面改修が必要となります。改修費用が1校当たり約1億5,000万円から2億円、トータルで3億円から4億円が必要になります。

こういったコスト面であるとか、先ほど申し上げた授業のそういう効果的な面も含めまして現在のところ、令和8年4月からシートスで学校水泳授業を実施する方向で作業を進めているところでございます。

○議長（永並 啓君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

ありがとうございます。ぜひそうしていただきたい。ほかのところも私も調べたら、やはり2時間単位で動いていますし、学校によっても、地域によってですけども、民間のほうバスを出しているケースもありました。これは今後、シートスのほうとの話合いになると思いますけれども、ぜひお願いしたい。

今回、シートスで水泳授業をする場合と、このまま両中学校のプールを使う場合と、私なりに調べさせていただきました。ただ、どうしてもちょっと私のほうで分からなかったのが、その水道代でした。

ですが、年間八十何万円ぐらいなんだなと思いながらも、プールの改修費はやはりおっしゃるとおり1億5,000万円から2億円

かかりますし、そういうのも含めてで、もしそれが可能ならば、今回取り組まれるということでしたので、私は先ほどの管野議員の質問を聞いてまして、中学校のプールをもう埋めて、駐車場かテニスコートか、そういう形で利用していただきたい。ちょっとこれは質問にないことですけども、やはり支援員さんをお願いしている以上、夜の7時過ぎに帰ったりということは大変な負担ですので、そういった意味も含めて、プールの跡利用にもぜひ取り組んでいただきたいと思います。

それで質問です。

前回、シートスで水泳授業を受ける場合や吉川小学校、光風台小学校の例を取ると、1人当たり5,000円というふうなことをこの場で伝えさせていただきましたけれども、シートスのほうはそのような金額と理解してよろしいでしょうか。今回、それに合わせて値上げしようなんていうお話も出たりなんかしているかなと思ひまして。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

先ほど申し上げましたとおり、今現在、令和8年4月からシートスで水泳授業を実施する方向で作業を進めております。

実は金額の面が、人件費が上がっているとか物価上昇等々もありまして、今現在、こういった形になるかというのは今後協議という形になると思っております。

○議長（永並 啓君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

では、ちょっともしかしらば、現在の光風台小学校、吉川小学校の児童1人当たり5,000円がもしかしらちょっと上がるかもしれないという御答弁ですね。分かりま

した。それはそれで可能性はあるかなと思いますが、もう1点、私が提案させていたきたいのは、先生、教諭の指導ではなくて、やはりインストラクターの指導のほうに、そういったことも含めて、ぜひシートのほうと交渉していただきたいと思います。これは要望で終わらせていただきます。

では、2番目の質問に入らせていただきます。

令和4年作成の第5次豊能町総合まちづくり計画の第2章の基本指針1「住民主役のまちをつくり出す“ひとづくり”」の中で、「安心して子どもが産める環境づくり」を掲げています。その具体策として、令和13年を目標に、産婦人科と提携した助産院を開設すると明言しております。

さらに、まちづくり計画の53ページでは、そのために必要な取組として、一つに助産院設置場所の確保、二つに助産院の確保、三つに地域の理解を進める、四つに医療機関との連携を進めると、大きく4点挙げております。

この4点について、それぞれの取組がどのようになっているかお尋ねします。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

小森生活福祉部長。

○生活福祉部長（小森 進君）

お答えいたします。

先ほど議員からおっしゃっていただきましたとおり、私どもの総合まちづくり計画の中で、令和13年度までに産婦人科と連携した助産院を開設するという目標を掲げてございます。

この内容なんですけれども、私ども町の年間の出生者数等を踏まえますと、町内に独自で開設することは現在難しいかなというふうに判断してございまして、誘致に向けた取組につきましては進められてござい

ません。

現状では、本町にお住まいの方で助産院での出産をされる方につきましては、川西市の黒川地区にある助産院、又は豊中市内にある助産院を御利用されているということのようです。

中でも川西市黒川地区の助産院につきましては、町外とはいえ、地域的なじみのある場所にあり、私どもの事業で実施しております「ぱばまま教室」や産後ケアなどの事業で関わりが非常に深いため、日頃から本町と助産院とのコミュニケーションを取らせていただいております。

また、病院で出産された方でも、産後ケアにつきましては黒川の助産院を利用されている方も多く、本町の実情についても把握していただいているというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（永並 啓君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

今の御答弁をお伺いすると、この計画をやめたという感じですか。違いますか、そういうふうに聞こえます。

これは、出生率が低いとか低いじゃなくて、というのも、このつくっている段階から低いんですよ。なおかつ、町内に子どもを産める場所がないと。出産のために町外に行かなくちゃいけないからつくるんだと。

私はこれを読んだときに、逆にそういったところをつくることによって、他市から若い世代を呼び込むための取組かなと思ったんですが、ここに出てきた背景はどなたにお尋ねしたらいいんですか。今のところ、豊能町は生まれる子どもが少ないからやめたっていう、まずそういう考えですか、お尋ねします。

それと、このときのつくられたその背景、

思いというものはどなたにお尋ねしたらいいでしょうか。お答え願います。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

小森生活福祉部長。

○生活福祉部長（小森 進君）

お答えいたします。

まさに議員がおっしゃったのがそのとおりだと思います。当時私どもは、やはり若い世代を呼び込むためにどういった施策ができるかということで、各役場内いろんな担当がございますが、いろいろ考えたところだと思います。

その当時出ていたのが、やはり若い世代を呼び込むために、つまり子どもを自分の地元で産み育てる環境を丁寧につくれば、その対応策になるんじゃないかという思いで策定したものと考えてございます。

しかしながら、現状を踏まえたときに、先ほど申し上げましたとおり、近隣にも一部助産院もあるということも認められてもございしますので、今の環境下から言いますと、お金のこともございすけれども、ちょっと町内のほうでは難しいのかなという判断をしています。

以上でございます。

○議長（永並 啓君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

なかなか難しいと思います。ただ、今ここでやめたとなった場合に、二度とこれチャンスは難しいですね。

何が今チャンスかということ、公共施設再編の時期だからです。このときにやっぱり、じゃあもしつくとしたらどこにしようかというぐらいの、そういった思いは、取組は、私はしておくべきだと思います。

まず、これについていかがですか。もうこの今の公共施設再編のチャンスを逃した

ら、もう二度とないですよ、これは。場所を必要とするから。

そうではなくて今のうちに、じゃあ、あそこの中にこういうことを組み込もうかと予備の部屋をつくっておくとか、それか、今の既存の施設をそういうふうに使えりような、一応そういうふうな形も考えて、今は違った使い方をしとこうとか、あるいはそうじゃなくて、もうもっともっとぎくばらんに空き家の有効活用として進めていこうとか、いろんな考え方があると思うんです。今は難しくても、かといって今ここでやめたという結論は、私は非常にこのときの思いからは外れることになると思いますが、これについてはどなたがお答えして下さるのかな。お願いいたします。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

小森生活福祉部長。

○生活福祉部長（小森 進君）

お答えいたします。

今回、議員が御質問いただけてます助産院の件もしかりなんですけれども、町内にはほかの医科につきましても、例えば整形外科でありますとか、今後も含めますと内科につきましても町内に数が減ってくる、若しくはなくなってしまうという可能性のものがあると想像します。

今後、我々が町としてできることを考えていくときに、その時々によって住民の方が不便にならないように、又はお子様の件であれば、町の活性化するような事業であるということで、町のほうが判断するならば、例えばそれを誘致するような施策も一つの方法かなというふうに考えています。

今回、町の施設の中に助産院をつくるというのはなかなか難しいことだと思うんですが、例えばそれを誘導するために何か施策を打っていくというようなことも今後考

えられるかなというふうに思っています。

以上です。

○議長（永並 啓君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

ちょっと話はそれますが、助産院というのは、助産師さんによるお産の介助やら母体回復、先ほど説明されてましたけれども、赤ちゃんの保健指導などを目的としています。

医療法第2条によると、入院ベッド数は9床以下で、豊能町としては、じゃあこの9床まではちょっと無理にしても、2床、3床、そういった検討もしていないんですか。頭からこれはもう無理だというふうに聞こえるんですけれども、この辺りはまずいかがですか。

それと、この計画そのものというのは、もともと町立の民営ですか、町立の町運営ですか、どこの立場で書かれているのか。今、誘致とおっしゃったけど、誘致するには相手の方がやっぱり場所も考えなくちゃいけないですよ。でも、町がこうやってうたっている以上、町としてどこまでやるんですか。先ほど言いましたように、公共施設再編の今じゃなければ場所の確保はできませんよ。

その辺の取組を、町長に質問してもよろしいですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

上浦町長。

○町長（上浦 登君）

お答えさせていただきます。

助産院の話につきましては、公設民営とかそういうことではないと思っていまして、民設民営を想定しているのではないかなと思います。

ただ、社会的な状況とかいろいろあると

思いますので、今、担当部長が申し上げましたように、令和13年までということですので、今直ちにというのはなかなか難しいという状況を部長が答弁をさせていただきまして、今ある資源、吉川の北側にある黒川地区で今、我々豊能町と連携をしてやっていただいているところを答弁させていただきましたが、まだその計画の令和13年まではございますので、決して諦めたわけではございませんので、そのところは引き続きその可能性について検討をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（永並 啓君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

まず1点、黒川のところにありますね。あれはこのまちづくり計画がつくられたときから既にあります。

それで聞きました、私も当時。あるのになぜですかと。同じようなものを豊能町につくりたいんですと、だから挙げてますと。そうなんです。ですから、私のほうは、そうかと、こういうことがあることによって、豊能町に新しい世代が来て安心して産み育てる、なおかつ赤ちゃんを抱えた人たちが集まって子育てについて話し合う、そういった和やかな場をつくろうとしているんだなど。

ただ、非常に難しいことも分かります。特に場所ですとかありますので、もしそれを考えるならば、今のこの時期しかないなと。公共施設再編の中でこれをどう組み込んでいくのか。たとえその場を用意したところで、助産師さんが見つからないということもあるでしょう。今は特に難しいのは産婦人科。出産ができる場の病院も少ない。これは実現するのが非常に難しいことは重々分かっています。

だけでも、やはり町として準備だけはしときたい。ここにそういう場所があるという、そういう準備は必要じゃないかと思って、今回質問させていただきました。今このチャンスを逃したら、もうこれは無理でしょう。民設民営であるならばなおのこと。まず期待できません。

大阪府を調べたら、全部で8か所ぐらいあったかな、今ざっと調べたところ。大抵が民設民営です。行政がこういうふうになっただけとかはまずないと思いますので、今回このチャンスを、やっぱり必要な時間だと思って前向きにというよりも、場所だけは確保していただきたいなと思いますので、これについてはいかがですか。考えていただけますか。それとも、もうここでやめましたと言うならば、もう二度とこの質問はしません。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

小森生活福祉部長。

○生活福祉部長（小森 進君）

お答えいたします。

ちょっと話の角度を変えてお話しさせていただきますんですが、まず助産院と助産師さんとしての仕事ということで捉えさせていただきますが、先ほど議員からおっしゃっていただきましたとおり、助産師のお仕事といたしましては、妊婦から出産、産後までにおける母子の健康についてのサポート、それと先ほどから出ております、助産院の中では正常分娩の場合に単独で分娩介助を行うことができる医療と保健の専門職でございます。

私ども、当然今の事業の中でも助産師さんに会計年度任用職員として、又は報酬の中で来ていただきまして、前段の部分についてのサポートについてはさせていただいてます。これは保健福祉センター内で行っ

ておりますが。この事業については、当然引き続きやっていくものだと考えています。

あとちょっとその後段の部分なんですね。要は、助産院をどうするかということなんですが、確かに自分のお住まいの身近なところですぐに行けるというサポートができる場所があるということは非常に大事だと私どもも考えてますけれども、ただ、実情を申し上げますと、近隣にもあるというようなことと、実際問題は、先ほども申し上げましたとおり、豊中市内の助産院も利用されているという実態もあります。その中で、やはり妊婦さんが自分の出産に関してどう思っているかという実情も、もう少し調査しないと駄目なのかなと思っています。

確かに助産院があっても、助産院で出産することを望む方もいらっしゃる、先ほどもありました産婦人科で産むことを望まれる方もいらっしゃいますので、その辺ちょっとニーズもしっかりもう一度見直しまして、先ほど町長も答弁させていただきましたとおり、踏まえながら検討していきたいと思っております。

以上です。

○議長（永並 啓君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

ぜひそれはそれでやっていただきたい。

助産師さんは帝王切開ですとか、陣痛促進剤を使うことができませんね。であつても、ここには、豊能町には安心して産み育てる場所がないと。ということは、産み育てる場所がこの今回の町の上げた計画です。ということは、当然病院との提携、連携も必要です。

今、ここでこの質問を上げましたのは、先ほどから言ってますように公共施設再編との関係です。ですから、いろいろな中で

最低ここは、そうならなかったとしても、そういうふうに考えていますということは期待できますかという質問です。それも今回ここに入れませんと言うならば、もうこれはなしだなと自分の中でそういうふうな判断が、ある面つきますので。そういったことを入れていただくかどうかだけ、ちょっと無理な質問かもしれませんが、あるいは空き家、空き地の活用を考えたいというならば、もうそれでもいいです。何かその辺りをきちっとしていただきたいと思っていますので、お願いいたします。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

上浦町長。

○町長（上浦 登君）

お答えさせていただきます。

あくまでも民設民営で検討してまいりたいと考えてございます。

○議長（永並 啓君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

ここには民設明説民営なんて一言も書いていない。今、町として何をやるかを書いている。何書いてましたか。先ほど言いましたね、場所を確保する。助産師さんを見つける。地域の了解を得る。医療との連携をつくる。民設民営にそれは要りませんよね。要るんでしたら、そのようにしてやっぱり5、6年、令和13年をぜひぜひ期待して待ってますのでお願いします。

次の質問に移りたいと思います。

指定管理者の管理監督、評価体制について質問させていただきます。

現在、シートス、たんぼぼの家、高山コミュニティセンター、生き生きふれあいホール、生き生きふれあいに関してはおちよと今出てますけれども、その4施設が指定管理者となっています。

この間、1市3町広域ごみ処理施設組合で年1回、ゆめほたるの指定管理者が提示した事業内容がそのまま遂行されているかどうかの、専門家とか住民を交えて精査・検証し、なおかつその結果を組合議会に出されてましたね。私はあれをそう受け取りましたけれども。

町も毎年、指定管理者の取組を精査・検証していると思うんですけども、どの部署がそれぞれの、シートスでしたら教育委員会なのかな、たんぼぼの家でしたら福祉なのかな、コミュニティセンターだったら3階かな、という形になっているのか、そうじゃなくて、町として指定管理者に向けてどこかのチーム的にこういう精査する形になっているのか、まずその体制をお尋ねします。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

入江総務部長。

○総務部長（入江太志君）

お答えいたします。

指定管理者の評価体制の御質問かなと思ってございます。

指定管理者制度を導入している施設におきまして、その管理運営が計画どおり適切かつ確実に実行されるかどうかを検証・評価するモニタリングの仕組みにつきましては、施設ごとに機能や設置状況が異なるため、学識や住民を含む統一的な委員会の設置はありませんが、指定管理者から事業報告書が提出されて、これはどの施設もだと思うんですが、募集をする際に募集要領にそういう報告を盛り込んでございます。

また、後で協定書を締結しますが、その中にも毎年度、事業が完了したら報告書を提出するという規定を設けている施設はございます。その報告書を基にそれぞれの所管が管理運営などの確認書類を基に、所管

部署において毎年評価を行ってございます。

その評価結果としましては、主要施策成果報告書の事務事業評価をまとめてございますので、その中で、外部評価ではございませんが、所属において評価をしているという状況でございます。

○議長（永並 啓君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

決算書か何かの資料のときのことをおっしゃっているんですかね、今の報告書というのは。ちょっと理解できなかったんですね。相手が出された書類、要するに自己評価ですわね、どんだけ進んだとかっていう指定管理者からの。その自己評価のことをおっしゃっているのか、それを基に担当課が見て、ああ、そのとおりだなというのを、次どういうふうに出しているのかを、ちょっとそこの説明をお願いします。

簡単な、これは概要です、頂いた4施設の。こんなにあるんですね、4施設だけで。それがそんな簡単にまとまるのかなという疑問もありますので、ちょっともう一遍、どういうふうに評価、きちっとやっていたかどうかを、どこの誰かが責任をもって、どういうふうな資料のまとめ方をしているのか、ちょっと御説明をお願いします。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

入江総務部長。

○総務部長（入江太志君）

お答えいたします。

本町では、先ほどお示ししていただいております猪名川上流広域ごみ処理施設組合でやられているような評価の体制というのは、町ではございません。

先ほども申しましたが、各指定管理者から各担当所管部署宛てに毎年度事業報告書

が提出されていると思います。それは議会にお示ししているものではありませんが、その様式も別に統一的な様式は定めてございません。それを基に各所管部署が評価をして、主要施策成果報告書を毎年度決算書と併せて、今回も提出させていただいておりますので、その中で評価をしてございます。猪名川上流広域ごみ処理施設組合の委員会、協議会を設けて評価をしているというわけではございませんが、そういう形で所管において評価をしておるという状況でございます。

この指定管理者制度の評価については、これは総務省のホームページにも指定管理者制度のホームページがございまして、全国的には約8割の団体が評価をしておると、これは令和3年4月時点のまとめだと思いますが、そういう状況でございます。そのうち3割程度が外部評価を入れていると、そういう状況は確認しております。

これは必置ではございませんが、本町の場合はそこまで体制は引けておりませんが、所管において評価をしている状況でございます。そして、何か事業報告で問題があれば、指定管理者から報告を求めるという規定が条例等でも定めてございますので、何か問題があるとなれば、担当部署が指定管理者から事情を聞けるというような形にはなっております。

○議長（永並 啓君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

指定管理者制度のメリットというのは、一つに民間のノウハウを取り入れることですよね。それによって住民サービスの向上が図られると。二つに費用対効果ですよね。よくなって、なおかつ人件費もちょっと抑えられる。三つに地域貢献につながるという、大きく三つあるんですけれども、ただ、

これが担当行政の管理監督を怠ると、サービスの向上につながらず、逆にデメリットになる場合があります。

実際にこれを見たとき、豊能町はどうかという思いがあったんですね。私自身が、一体この四つの指定管理者、当然公募しますから、相手からいろいろ提案があって、町がここの指定管理者だったら、事業者だったという形をお願いしていると思うんです。ですから、相手の事業者がどんな提案を出したか、私はいろいろ探しました、自分の中で。そうしたら、全然ないですよ。で、私がなくしたのかどうなのかなと聞きに行ったら、実は配っていませんと、議会には。求めた情報公開でも、御存じのように相当資料があるはずですよ、これ。一件一件事業者の。で、概要だけでも作ってほしいということで求めた情報公開が、この4件分なんです。

それで、これを見たときに改めて、ああ、こういうことを提案していたのかなという、自分でちょっと考えさせるときもありました。ですから行政としては、さっき言いましたように、三つの大きなメリットあっても管理監督を怠ると、要するに地域につながらないデメリットがあるということも十分御承知かと思います。

この提案書っていうのは議会に、概要版でもいいですけど、出すことは無理なんですか。議会の目もやっぱり必要じゃないかなと思ったんですが、この辺りはいかがお考えですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

入江総務部長。

○総務部長（入江太志君）

お答えいたします。

この指定管理者の選定につきましては、本町で基本指針を定めてございます。それ

で指定管理者選定委員会を立ち上げまして、そこで学識の方も入れまして審査の上、選定しておるという状況でございます。その後、議会のほうに指定の議決を得ているという流れでございます。

その中で、提案の中身については御質問等あれば、所管が答弁するような形になっておろうかと思うんですが、この提案の中身の具体的な内容については、企業のノウハウ的なものもございますので、その辺りの扱いがどうなのかなと思いましたので、そこはそういう形が一定取られるのかどうか、どんな提案がされたかというのはあれなんですけれども、提案内容全て提出できるかというのは、ちょっと調べさせていただかないと、今そこで出せる出せないというのはどうなのかという感じで思っておりますので、そこはちょっと勉強させていただきたいと思います。

○議長（永並 啓君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

説明がありましたね。選定委員会は専門的に見てますね。その中でこの業者はというふうなノウハウはあると思います。その業者が提案した事業のやり方っていうか、ああします、こうしますと、こんなものを考えていますとかっていうのはよう御存じでしょう。目を通してますよね。こうします、ああします、具体的ないろんなのが。それがきちっと進んでいくかどうかということはノウハウじゃないんですよ。豊能町にこういったものを持ってきますとか、ああしますとか、それができるから提案とおっしゃってるわけですよ。

それは、その形どおり地域貢献につながっているかどうか。やっぱり議会の目というのは必要だと思っています、私は。ですから、出していただきたい。議会が指定管

理者のその事業を見て、逆に指定管理者のほうから、実はこういうところに困っているというのもあるんですよ。

私は、10年ほど前に監査委員をさせていただいてました。そのときに、やはりシートスですとか、たんぼぼの家ですとかに足を運ばせていただいて、直にお話を聞いています。そういうことを含めて、やはりコミュニケーションというのが必要だと思います。今ここに上げている計画がなぜ前に進まないのかということも必要ですし、逆に向こうから、実はこうしたいんだけど、行政のせいにするわけじゃありませんけれども、行政からこういう面でストップがかかっているとか、こういうところでできないんですということも。いや、首傾げて結構です、それは具体例を言ってるわけじゃないから。ということもあるんじゃないかと言ってるだけですから。

そういう意味も含めて、私はこれは議会に出していただきたい。指定管理者がどんな事業を考えているのか、どんな事業ですよ、どんなノウハウじゃないですよ。これはできますか。出してしかるべきだと思いますが、いかがですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

今、議員がおっしゃっているのは、報告書の件でしょうか。

今の議員の御質問をずっとお伺いしますと、もともと提案があって、それに対して我々は委員会をつくって、そこでその提案が一番その施設にふさわしいのかどうかというところを評価した上で業者を決めて、それを議会のほうに、こういう指定管理者が出てますよということで議案としてお示しをして、そこで議会のほうからいろ

いろな御意見をいただいて、それでよければということで御可決いただいているという流れがございます。

それとは別に、今議員のほうからは、報告というのを我々は求めてますので、それでもって我々は、その提案したことに対してそれが今どういう進捗で来ているのかというところを報告書を見ながら評価して、業者のほうに、今こここうなってませんねとかいうそういうやり取りがあると思うんですけれども、そのところを提案に基づいて今進捗がどうなっているのかというところを議会のほうにもお示ししながら議会のほうから御意見をいただくと、そういう流れでよろしいのでしょうか。

そういうことであれば、それは検討する余地があるのかなというふうに思います。

○議長（永並 啓君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

失礼しました、質問の仕方が悪かったです。

私は、一番最初に報告書はまず行政の中で作っているのかというのと同時に、出していただくときにその報告書と基になる提案書の比較を考えていたものですから、「提案書」という言葉を使わせていただきました、次に。

このところが急に飛び跳ねてしまったから、非常にちょっと混乱させて申し訳なかったんですけども、まず大事なものは、私は提案書だと思っています。併せて報告書も一緒に出していただけるのならば、ぜひそれはお願いしたいんですけれども、いかがでしょうか。事業の取組計画書ということですか、じゃあ。

○議長（永並 啓君）

この際、暫時休憩いたします。

（午前11時54分 休憩）

(午前11時55分 再開)

○議長（永並 啓君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

入江総務部長。

○総務部長（入江太志君）

お答えいたします。

公募するときに事業の提案の中身、それについては選定の際にもお伝えしている場合もあると思いますが、またその内容が分かるように、その辺の提供の方法はしていきたいと思います。

それと、報告と併せて比較できるようなものは、検討して出していけるように努めていきたいと思います。

以上です。

○議長（永並 啓君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

ぜひよろしくをお願いします。

今回これを読ませていただいて、えっ、というのもありました、何点か。これにつきましては、別な機会でさせていただきます。機会があれば。よろしくお願いします。

最後の質問に入らせていただきます。

香害について質問させていただきます。

この議会でも何人か同僚の議員が同じ質問をされてきてますけれども、近年、確かにそうなんですけれども、強い香りを感じると頭痛、吐き気、倦怠感などを発症する健康被害が問題になっています。原因は、柔軟剤や消臭剤とか合成洗剤なんですけれども、はっきり原因は分かっています。何十種類もの化学物質で作られている人工香料によるもので、別途その香りも問題なんですけれども、その香りを持続化させるためにマイクロカプセルも使ってますね。ですから、人工の匂いの化学のその反応すると同時に、全体的なマイクロカプセルの間

題もあってます。

ただ、これはちょっと話が広がり過ぎますので、今回はこの香害につきまして、一人でも多くの方に認識してもらうことが大事だなと私は思っています。

資料では、2年前に北海道厚岸町の教育委員会がこの香害について調査しています。対象は児童生徒、学校職員、保護者、要は学校関係です。

特に児童生徒448人のうち46名、約1割がもう既に柔軟剤や人工的な香水などで具合が悪くなったりしています。

要するに日常的に私たちが使うものですから、学校ですとか乗り物ですとか公共施設とか、そういうところで具合が悪くなるし、直接北海道の厚岸町のほうにお電話させてもらいましたら、このアンケートによって、児童生徒自身が何で自分が具合悪くなるのかよく分かったと、なおかつ、自分だけの問題じゃなかったというところに驚きをもっています。

ですが、ぜひこういったことを豊能町でも、特に学校ですね、学校の中でこの香害を知っていただくためのアンケートに取り組んでいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

香害は近年、深刻化している問題で、香りの強い製品が原因で、頭痛や吐き気などの体調不良を引き起こす健康被害です。

北海道厚岸町では、生活には多くの化学物質があふれ、柔軟剤や消臭・除菌剤などの香料による健康被害で化学物質過敏症を発症する人がいる。こうした化学物質による影響について、学校の中で香りの害について現状を把握し、児童生徒及び学校職員

の健康維持管理に資することを目的に、児童生徒と保護者、学校職員に調査を依頼されたというふうにお伺いしております。

現在学校では、国が作成したポスターを掲示したり、場合によっては学校だよりを通じて、自分には快適な匂いでも他人は不快に感じることや、体調不良を起こすこともあることを意識すること、これが大切である旨、情報提供や注意喚起をしています。今後も機会を見つけ、そういった啓発を行っていききたいというふうに考えております。

○議長（永並 啓君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

私の質問の言葉が足らなかったかもしれませんが、そのために小中学校で、来年義務教育学校になりますが、アンケートに取り組んでいただきたいという質問だったんですけれども。そのお答えだったのが今ですか。ちょっとごめんなさいね、よろしくお願いします。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

先ほどの北海道厚岸町の調査でもありました。それから、2024年5月から2025年1月にかけて、北海道、新潟、兵庫県などの9都道府県21自治体、この中で小中学校生約8,000人に対して同様のアンケートを行っているというふうにホームページで確認しております。これにつきましては、やはり10.1%の方がそのように感じたというふうな結果が出ております。

ということは、やはり何らかの形でその匂いに関するそういった頭痛や吐き気等、そういう体調不良というのがあるということについては、もう認識せざるを得ないという部分かなと思っております。

そういった件を受けて、先ほど申し上げましたように啓発をするとともに、養護教諭部会等々で今後その香害についても検討していきたいというふうに考えております。

○議長（永並 啓君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

啓発は期待します。ポスターも国のほうは作っています。

私がお尋ねしているのはそういうことじゃないんです。

この香害という被害、要するに、自分が被害者かもしれない、加害者かもしれない、それを直に感じ取っていただきたいがために、この学校という現場でアンケート調査をしていただけませんか、全児童生徒に。そうしたら、自分の身の回りでこんなにもやっぱり具合が悪くなる人がいるんだなということを、肌身で感じていただきたいためのアンケートです。それをしていただけますかという質問なんです。アンケートしていただけますかという質問です、単純に。

今、柔軟剤の代わりにクエン酸を使えば、繊維の弾力やら維持でふっくらと仕上がりますので、そういったことも併せて、子どもを通して家庭に伝えることになってますでしょう。

もう一遍、質問は、豊能町の義務教育学校でこういった被害に遭っている子どもがいるかどうか、全児童生徒にアンケートを取っていただけますかという質問です。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

板倉教育長。

○教育長（板倉 忠君）

議員の今回の一般質問の内容を読ませていただいて、私も勉強させていただきました。

その中で、やはり全国的にこの学校の中でという、いわゆる公共性のある閉鎖された中であるところについては、香害というのは課題であるというのは認識させていただきました。なおかつ、その中で児童生徒の1割程度が被害を受けているということも、一般的なところというふうに解釈しまして、もうアンケートせずとも、その認識の下で教育委員会としては動いていかないかというのは、今回の御質問で認識させていただいたところです。

ただ、議員の今の御質問によりますと、そのアンケートをすることによって一人一人が自分を見詰め直すことができるのではないかという、その趣旨につきましては、また学校によりましたら、もう既に学校だよりでそういう情報を流して保護者に啓発している学校等もありまして、学校の状況がちょっとつかめておりませんので、保健の先生方が集まる機会がありますので、学校の状況を聞きながら、今議員の言われている趣旨が学校においてはどのようにできるのかというアンケートも含めて検討していくというふうにしていきたいと思います。

○議長（永並 啓君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

ぜひ実施していただきたい。

これは最近、いろいろな消費者団体を通して各医療関係の大学も動き出しています。実際に新潟とかありますけれども、まず何をしようかとなったときに、アンケート調査なんですね。要するに、これをアンケート調査することによって、自分がそうかと、自分が使っているものによって被害を他人に与えているなど、そういった認識を広げているわけです。多分今思うと、たばこもそういう形で禁煙がここまで広がったのかなど、これは私自身はちょっと分かりませ

んけれども、どこ行ってもそういうふうなことになってますので、非常にこれは有効な手段かなと思ってますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（永並 啓君）

以上で、秋元美智子議員の一般質問を終わります。

この際、暫時休憩いたします。

再開は午後1時といたします。

（午後0時06分 休憩）

（午後1時00分 再開）

○議長（永並 啓君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、才協明美議員を指名いたします。

才協明美議員。

○議長（永並 啓君）

才協明美議員。

○2番（才協明美君）

議長から御指名をいただきましたので、大阪維新の会、才協明美、一般質問をさせていただきます。

今期、これが最後の一般質問になります。理事者の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

まずは、ちょっと順番違って、交通全般についてをさせていただきます。

先ほど他の議員が交通の質問をされたときに、新たな交通施策は考えていないとしておりました。できないのではなく、やらない理由を住民に説明しなければならないと思います。

先ほどちょっとお昼に調べたんですけれども、住民移動の権利とは、人が生活の本拠を自由に定め、どこへでも移動できるという基本的な人権です。この権利は、憲法で保障されている「移住・移転の自由」や「幸福追求権」に裏付けられ、また、公共

交通機関の利用など生活に不可欠な移動を保障する「交通権」としても捉えられます。

単に引っ越しするだけでなく、社会の成立にも不可欠な要素であり、現在においては、高齢化社会における交通弱者への配慮など、自治体の責任による交通網の整備・確保が求められていると書いておりました。

なぜできないのか。民間があっても、空白地帯や空白時間帯が存在する、この事実は消えない。そこで補完するのが行政の役割でしょ。

それで私たちが言っているのは、カバーするのはデマンドタクシーと行政の方はおっしゃいますけれども、そのデマンドタクシー、予約電話がつかない。これで本当の補完と言えるんですか。公平性を問います。電話が繋がった人しか乗れない、移動の権利に格差が生じる、これが住民の命と暮らしを守る交通政策なのでしょうか。

本題に入ります。

A I オンデマンドバス「ハニタス」の3回の実証実験を行いました。結果としては、町の期待した効果を出さずに残念な結果と評価をされても仕方のない状況でした。本町には、阪急バスや京都タクシー、デマンドタクシーが運行していますが、その空白時間帯や路線外地域、また予約電話がつかないなど、交通弱者が多く取り残されています。

これは、昨日も高尾議員もおっしゃってましたが、豊能町の人口が流出する大きな問題です。

現在危惧されているのは、この若者の世代、子どもの小さいときはこの自然豊かな豊能町で伸び伸びと暮らして育てられるからと喜んでおられます。でも、子どもが中学生ぐらいになったら、自分でバスに乗って映画館に行ったり、都会へ遊びに行きたい、そして学習塾や習い事、そのときに親

は頭を打つんですよね。みんな考えてしまう。ここでいいのだろうか、この町で、豊能町で住み続けられるのだろうか。

そして、体力のあるときには引っ越しもできます。引っ越しせなあかん、ちょっと子ども3人もおったら、下へ出やなあかんとか言って、今までも出ていかれました。そして、リタイアされた方は、定年された方たちはもう引っ越しする体力がない、それはもう諦めています。そして、若い人たちに、将来を見据えてもう移転したほうがええんちゃうかと促しているのが現状です。これでは豊能町を維持できなくなってしまうんです。

一方で、豊能町に住みたい若者、特に農村部に住みたい若者が増えてきています。先日も川尻地区で、豊能町に移住したい若者の集いに参加しました。中でも、東地区に住みたい、古民家を要望している若い世代が多く、現在西地区に賃貸で住んでいるんですけれども、東地区の旧村で古民家を探しているという、赤ちゃんを抱っこされたすてきな御夫婦と接点を持ちました。

皆さん、豊能町を気に入ってくれてとてもうれしく、とてもいい町なんです、いいよ、いいよって胸を張って言いたい。交通のことは言えなかった、私。でも、うそはあきませんけど、言えなかったんです、そのときは。

9月の選挙、高齢者の方はどうされるんでしょうか。あるところで、当日は行かれへん、当日は用事あって行かれへんねんけど期日前投票、私どうやって行ったらいいの、バスないのと言われました。西地区の新光風台の上の人とか、東ときわ台の一番端の人とか、電車はあっても、どうやってその駅まで行ったらいいんですか。とにかくにも全てにおいて、交通弱者にとって、町にとっても切実な問題です。

質問します。

持続可能な公共交通を維持するためには、町が主体的に政策を設計・運営できる組織体制が不可欠です。提案としまして、交通政策課を新設し、バス・デマンド・福祉輸送を一元管理し、東西別モデルで効率化を図るべきです。

交通部署を新設し、政策の一元化を進める考えはありますでしょうか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

入江総務部長。

○総務部長（入江太志君）

お答えいたします。

交通につきましては通勤・通学、買物や病院の移動手段、介護・福祉の移動手段、また児童の移動手段など、幅広い部署にわたって施策を行っております。

それぞれの部署で行っている交通施策を一元化し、効率よく交通施策を行ってはどうかという御質問でございますが、それぞれの利用者の状況の把握であったり、職員の人員不足の中、交通部署を新設して施策を行っていくことは、現時点では少し難しいのではないかと考えてございます。

○議長（永並 啓君）

才協明美議員。

○2番（才協明美君）

先ほども言いましたけど、住民の移動の権利はどうなるんですか。なぜ独自交通部署が必要か。民間依存のリスクです。いつ撤退するか分からない阪急バス、京都タクシー、赤字路線を長期維持する義務はないんです、民間は。利用者減と人手不足で撤退可能性が高い。過疎地や山間部には、特に民間は採算性が低く、国や府の補助が切れた時点で事業者は撤退します。

そして、東西地区のニーズ格差です。西地区は能勢電があり都市部への通勤圏、東

地区は農村部・山間部中心と、交通ニーズが根本的に違います。一律サービスでは不効率になるため、地域ごとに設計できる部署が必要だと思っているんです。

そして長期的な移動保障。免許返納が進む高齢社会で、移動の権利を町が保障する必要があります。医療・教育・買物・役場へのアクセス確保は、住民定着にも直結します。

人員不足だから何もできないということは、ひしひしと分かっているんです。そのままでは絶対何もできないことは分かっているんです。だから交通課、機構改革ですわ。交通政策部門をつくってほしいという。それができませんで、今まで全てにおいてできません、できません。減便されたところには、電話予約が繋がらないデマンドタクシーを配備していると逃げる。

先日、私、現場の関係者から聞き取りを行いました、京都タクシーの。西地区に営業所があり、東地区までは往復約40分かかります。歩合制の給与体系。ドライバーが乗入れを敬遠しているという声がありました。当たり前ですわね、これ。食べていかなあかんのですもん。これは、制度上の補完という、町が言う補完というのと実際の利用可能性と大きく違ってくる、大きく乖離している。

ハニタスの車両4台が眠っています。維持費はかかっているのに使われないままです。この車両を有効活用し、町が主体となって試験運行を始めるべきではないでしょうか。運転手確保については、町職員に加え、シルバー人材センターや地域公募で確保可能です。この点についてのお考えはどうでしょうか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

入江総務部長。

○総務部長（入江太志君）

お答えいたします。

まず、ハニタスの車両の件でございますが、現在ハニタスの車両につきましては、阪急バスのほうで車両の維持管理を行っていただいております。

車両の活用方法については、町内において幅広く有効に利用できるよう、検討していきたいと思っております。具体的にはまだ決まっておりますが、利用方法が決まれば議会で報告をさせていただきたいと考えております。

御質問は、この車両を使って町職員、あるいは公募で職員を募ってはどうかという御質問だと思いますが、町職員、あるいは民間公募ドライバーによる運行確保はできないのかということでございますが、ドライバーの確保は非常に厳しい状況でございます。2024年問題からの運転手不足につきまして、現在も厳しい状況が続いております。運転手の確保ができないという状況が続いておりますが、本町といたしましては、令和6年度より、府外から転入し交通事業者への就職をした方へ、移住就職支援金を加算する制度をつくりました。また、この6月議会の補正予算では、乗務員確保支援事業として就職支援補助、家賃補助につきましても新たに取り組んでおり、乗務員の確保に向けた取組を引き続き行っていきたいと思っております。

町職員、あるいは公募によるドライバーの確保が非常に難しい状況が続いております。交通事業者でさえ、なかなかドライバーが確保できないという状況ですので、なかなか本町で取り組むには厳しい状況かなと思ってございます。

○議長（永並 啓君）

才脇明美議員。

○2番（才脇明美君）

そこで提案します。道路運送法第80条について、この制度について伺います。

いわゆる「旧80条バス」と言われていました。80条バスって最近まで言われてて、千早赤阪村とか太子町とか走ってますよね。それは現在、道路運送法第78条に整理されてます。これから「78条」と言います。

この制度は、区域や期限を限って、町が自家用車で運行できる特例です。この制度をどこまで把握されていきますか、というのを質問したいんですけど、私が言っているかしら。これ、私、豊能町版で考えたやつ、理事者に渡してます。

「豊能町版道路交通法第78条運行管理体制」。

制度概要、道路運送法第78条は、区域や期間（時間帯を含む）を限って、町などの公共団体が自家用自動車の有償旅客運送を行うことを認める特例です。豊能町でも交通空白時間帯・地域への対応が可能なんです。

運営主体は豊能町。交通対策担当部署ができれば、車両「ハニタス」を活用、運転者は二種免許必須、町職員か地域必須、シルバー人材、それか、人が足りないと言うのならば、二種免許取得支援制度を検討するべきです。25万円ぐらいかかるそうですけどね。

そして運行管理、配置、アルコールチェック、運行記録義務化。

対象範囲は公共交通空白地帯、空白時間帯。

料金設定は実費ベース、条例で規定する。例えば300円から500円。

安全管理は運行計画書、定期点検、運転者教育。

手続は国交省へ78条許可申請を出した。約3か月から6か月で許可が下りる。迅速

にしてくれたら、もう冬にはこれ走れます。

この78条、どう思われますか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

入江総務部長。

○総務部長（入江太志君）

お答えいたします。

この78条の第2号の規定では、市町村、NPO等が登録を受けることにより、いわゆる交通空白地有償運送、公共ライドシェアの運行が可能となります。

この交通空白地有償運送につきましては、路線を定めて運行する場合は路線バスと、区域を定めて運行する場合は、タクシーと運行が重複するため、既存の路線バス・タクシーの撤退につながるおそれがございます。また、既存交通事業者との協議が困難であることから、現時点では導入は難しいと考えてございます。

この交通空白地有償運送を運行するに当たっては、先ほど議員から御説明がありましたが、交通空白地域、あるいは時間帯という考えもございますが、本町の場合はデマンドタクシーを町内運行ダイヤを組んで、現在走る体制は引いてございます。

そういう状況は交通空白地となるのかどうかということも、交通空白地を決めるに当たっては、地域公共交通会議で説明をし、認めていただかないといけないのかなと思ってございます。そこで運賃とか、先ほど議員がおっしゃいましたもろもろの項目の承認を得て認められれば、そういう手続を踏んでいけるのかなと思ってございますが、そこにはタクシー事業者、あるいはバス事業者も参加してございますので、そういう競合関係も事前に調整を丁寧におかないと、撤退等々につながって、さらに地域公共交通の環境が悪くなるということも懸念されるところでございますので、

その辺は丁寧な議論が必要なのかなと思ってございます。

ですので、今、予約がなかなか入らないということで厳しい御指摘も受けておりますが、まずはデマンドタクシーの利用促進を図る、乗っていただくような環境をもう少し丁寧につくっていく必要があるのかなと思ってございますが、その上で、それもしできないと、撤退となった場合に、交通空白地をどのように議論するのかと。そこで、交通事業者との競合関係が解消されて、その辺の運行が可能という環境になれば、運転手不足の状況もございますけど、いろんな選択肢が出てくるのかなと思っておりますが、現在はそういう状況にないのかなと思ってございますので、そこはまた交通事業者の意見も交換しながら、今後対応等も考えていきたいと思ってございます。

○議長（永並 啓君）

才協明美議員。

○2番（才協明美君）

私の言うてること分かってはりますか。また一から言わなあかんのですかね。

交通弱者の問題は今起こっているんです。そして地域公共交通会議に諮らな駄目。諮ってきましたか、今まで。私も傍聴してましたが、諮ってない。電話もつながらないも何もそんなもん話してません。先ほどの教育委員会と一緒ですやん。

これだけ問題が生じているのに、地公会議では何も言わない。ただ民間の言いなりで、料金上げます、廃止します、ダイヤ改正します、それで何も町は言わない。それでいいんですか、この町は。

毎回毎回、デマンドタクシー、デマンドタクシーが補完するって言うてるけど、こちらの議員さんも、ここに来るのにデマンドタクシーの電話がつながらなかったときがあったんです。御主人も車乗れなかった。

人を頼ってここに來られた。そういう状態なんです。本当に行かなあかんときにデマンドタクシー、私ら予約ようしませんわ。できますか、皆さん。大事な会議があるときに。そんなことができますか。何を言わせるのか。何回同じことを言わせるのか。

副町長、何か御意見はございませんか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

すみません、地域公共交通っていうんですか、豊能町の交通問題というのは昨今、本当に路線バスが減便になったり廃線になったりということで、特に東地区におきましては、非常に交通の足の手段というところで申し上げますと、厳しい状態になっておるといふところは、才協議員がおっしゃっているように、我々も十分認識しているつもりでございます。

ただ一方で、今走ってます路線バスであったりタクシーというところは、民間の事業者がやってらっしゃるところがございまして、我々としても申し上げることは申し上げておりますけど、それはやっぱり限界があるというんですかね、限りがあるところでございます。

町独自で何ができるのかというところもいろいろ検討はしておりますけれども、今、部長が申し上げたように、交通空白地帯というのがどうなのかというところで申しますと、なかなか現時点での導入は難しいというのが現状でございます。

特にタクシー会社が今、デマンドタクシーを走らせていただいております関係で、そことも競合というところが非常に我々も懸念しているところでございまして、当然そことの協議っていうのが必要になってくる、その上で考えますと、やはりそこはな

かなか困難な状況が予想されるのかなというふうに思っております。

ただ、議員がおっしゃるように、これは豊能町の中でも一番重要な課題であるというところは我々も認識しております。電話がつながらないということで先ほどから何回かおっしゃっていますが、その問題についても我々、タクシー会社とは協議しながら、そういうことが起こらないようにということではいろんな取組も提案させていただいて、京都タクシーのほうでも対応いただいているというふうには認識しておりますけれども、まだまだ不十分であるということでございましたら、またタクシー会社のほうにも強くその旨は申し上げていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（永並 啓君）

才協明美議員。

○2番（才協明美君）

電話がつながらない問題。先ほども言いましたように、ヒアリングしたら、お給料の体系が歩合制やということで、なかなか072-739やったら出られへんのかなと思ってしまいますやん。

私は、批判を目的で言ってるんじゃないんですよ。公共交通は単なる移動手段じゃない、住民の基盤なんですよ。

民間の撤退リスク、これ、いつあるか分からない。そうなったときにどうするんですか。ぱぱっともう慌ててハニタスを走らせるんですか。

財政上、大変なことはもう重々分かっています。私は、大阪維新の会です。無駄をなくそう、無駄をなくします、行政のスリム化を図りましょう、そういう理念です。寄附をしましょう。それ、理念です。自分の行政に無駄をなくせ、節約せえって言うてる本人は、襟を正して自分から身を切っ

て大変な被災者のところに寄附をする。だから、行政も頑張って無駄をなくす、無駄をなくしましょうって言ってます。しかし、これは別、この問題は。

その中でも、資産を活用してくださいと、資産というのはハニタスです。そして、人材、シルバー人材、地域の人材を登用してください。そしたら、豊能町にふさわしい持続可能な交通モデルができるんじゃないかなと考えるんですけど。そのために、私はこの4年間、交通問題。諦めません。

次の質問に行きます。

整形外科医の問題です。

昨年、私、町内で整形外科医が存在しない、秋元さんも言うてはりました。この現状を取り上げ、この必要性を訴えてきました。

高齢化は50%を超え、転倒や関節疾患など整形外科の診療ニーズは年々高まっています。しかし、町内に整形外科はなく、池田市、箕面市、川西市まで通院せざるを得ません。

先日、母を連れて池田市の整形外科に行ってきました。そして、先生が豊能町出身の方でした。旧村の出身の。豊能町で開業可能ですかって尋ねたら、私らも食べていかなあかんねんって言われました。採算面から一蹴されました。

余談ですけど私、お母ちゃん連れていったら、看護師さんがぱっと来て、どうやって来られましたかって。自動車です。あ、そうですか、バスじゃないですね。診察室に入ってきました。住所見て豊能町切畑、バスで来はったらえらいこっちゃなと、早よ帰らさなあかんなと思いはったんかなと思って、その心遣い、ね、入江部長、もうすごく感動して、ああ、こういう先生いてはんねんや、分かってはんねや、豊能町のことをと思いました。これ余談ですが。

こちら食べていなければならないというこの現実、人口1万7,000人という規模や診療報酬制度の限界を示しています。

そこで、お尋ねします。

昨年12月の一般質問以降、整形外科誘致に向けて、いつ、どこで、どの医療機関や関係者と交渉、又は打診を行ったのか、お答えください。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

小森生活福祉部長。

○生活福祉部長（小森 進君）

お答えいたします。

議員御指摘のとおり、令和5年12月にて、町内で診療する整形外科医院が閉院することになりまして、御不便おかけしておりますけれども、現在におきましても町内には整形外科医院が存在しないこととなっております。

これまで町内に整形外科を開業していただくべく、もともとはございました森井整形外科医院への御相談、また場所等の条件が合いそうな近隣市も含めました医院に、私ども行政からも何軒かお尋ねをさせていただきました。

現在、新しい医院が開業されるには至ってございませんが、本町と関わりのある先生からの御紹介におきまして、現在、他市にて整形外科医院を開業されている先生につきまして、令和6年2月より継続してお話をさせていただいているところでございます。

○議長（永並 啓君）

才脇明美議員。

○2番（才脇明美君）

お話をさせてもろてるところです。今後の見通しは。そして、財政危機の中で、町として現実的に取り得る支援策や広域連携の方向性はないのでしょうか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

小森生活福祉部長。

○生活福祉部長（小森 進君）

お答えいたします。

先ほど申しあげました先生とのやり取りの中で、私どもよりは町の概要についてありますとか、先ほどございましたが、町内でこの診療をしていただくためにどれぐらいの規模でできそうなのか。もともと本町には二つの整形外科がございましたので、その辺りもお伝えしながらお願いしているところなんですけれども、先生のほうからは、開業いただくために人材面、資金面、場所等々、御準備いただくことが多々ありまして、本町内で開業する意向はあるものの、現状につきましては、開業にはまだ至らない状況になってございます。

特にお聞きしておりますのは、町内にて安心していただける診療を行うために、医師の確保が困難であるとお聞きしてございます。その他、開業する場所につきましても、本町で把握している情報や検討事項について先生にお伝えしながら、引き続きお話をさせていただいているところでございます。

先ほど議員のほうからございました、私どもで取り得るような対策につきましてですが、私ども、新規開業につきまして、先ほどもお答えしてましたように人材面、次に、現在の物価高騰にも連動した資金面であるということも先生からお聞きしてございます。

お尋ねの、本町として取り組める支援策につきましては、全国他市町村におきまして、医療機関の開設に係る支援に対する補助金制度を実施されているところが見受けられます。これは、高齢化率の非常に高い本町におきまして、不足している診療科を

開設するために少しでも取り組みやすい制度として認識してございますが、これは本町の財政状況等も十分踏まえながら、実施について考えてまいりたいと思っております。

○議長（永並 啓君）

才脇明美議員。

○2番（才脇明美君）

空き公共施設が出てくるかも分からないし、無償提供、財政面も考慮しているんですから、こちらから土地や建物の情報の提供、そして後方支援ですね、経営など直接負担をかけないように後方支援したり、それとか無償で建物を貸してあげるとか、そういうことも考えたらええかなと思います。

そして、結局はこれ、財政を守りつつも住民の健康と利便性を確保する知恵を出し合って、早期に具体的な形を示していただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

小森生活福祉部長。

○生活福祉部長（小森 進君）

お答えいたします。

先ほど私ども、今の考え方についてお伝えはしました。今、議員のほうからも数々の御提案もありました。私どもも、それも十分理解しております。先ほど申しあげましたことも併せまして、今議員がおっしゃったような提案も受けて、実現のために努力をしてみたいというふうに思っております。

○議長（永並 啓君）

才脇明美議員。

○2番（才脇明美君）

ぜひ早急によりしくお願いします。

次の質問です。

道の駅構想における直売所の出荷体制と価格設定の在り方についての質問です。

農業の時代が来ました。この中山間地帯でも農業を一生懸命頑張っていけるような豊能町にしたいと思いますね。

現在、豊能町には志野の里という直売所があり、地元農産物の販売を行っています。新鮮なきれいな野菜、おいしいお米や納豆やお豆腐、手作りの小物たちがきれいに並べられています。お客様も多く、10時過ぎに行ったらもう目当てのお野菜なんてないです。大変いいことです。

そして、豊能町は大半が兼業農家です。なぜ兼業農家が多いのか。農業一本では食べていけない。

兼業農家の中でもどの職業が多いかといったら、公務員さんです。今はその公務員さんも定年を迎え、農業に専念され、立派な農作物を作っておられます。中でも、小規模で趣味的、家庭菜園的に出荷される農産物もあるようです。これらもみんないい品物です。

しかし、出荷される野菜の多くは価格が低く設定されており、消費者は喜ばれる一方、専業農家にとっては採算が合わない状況です。そのため、専業農家は農協への出荷を選び、直売所への参加は限定的になっています。

そこで、質問です。

道の駅構想における、農産物の直売所に出荷する価格の心配です。ちょっとでもお小遣いになればいいという農家さんと、生業にしている専業農家さんの農作物をどのように区分けし、品質や販売ルールを整理するのか、お聞きします。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

坂田都市建設部長。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

お答えいたします。

まず作物についてですけれども、必ずし

も兼業農家の作物、それから兼業農家じゃない作物、そういったものの区別をするということについては考えておりません。

今現在、志野の里での販売ルートについてですが、専業・兼業問わず全ての出荷者に対して、食の安全の観点から、農薬の防除履歴を作成することをまず徹底しております。

また、生産物については原則豊能町産としておりますが、本町に隣接する地区、例えば茨木市とか亀岡市、そういったもので生産されたものについては、産地申出書というものを提出してもらって産地を明らかにするという、そういったようなルールを定めて販売を行っております。

ただ、お米につきましては、町外で作られたお米についての取扱いは、今現在行っていないというところでございます。

以上です。

○議長（永並 啓君）

才協明美議員。

○2番（才協明美君）

まだ構想の話ですから、ちょっと早い話かも分からないですけど、農家さんは心配されてるんですね、この辺を。ですから皆さん、JA北部農協に出してしまう。ちょっとでも値段が高いし、みんな買い取ってくれるからですね。

羽曳野市の「しらとりの郷」って私しょっちゅう行くんですけど、ここはすごい規模です。そこはJA大阪南が直売所を運営し、品質管理と価格の安定を図り、専業農家も含め幅広い出荷者で確保されているそうです。

能勢のくりの郷は、これはもう自由に農家が出荷されているみたいですね。これはちょっとまだ確認は取れてないんですけど、ちょっと聞き及びました。

専業農家さん、タキイの専門学校に行っ

たりして、いろいろ学んだ人たちが帰ってきて農業をしている。種も研究してちゃんとしたやつで作った作物、野菜があるんですね、例えばかぼちゃとか。これはちゃんとした厳選した種で作ってある。それは、やっぱり400円、500円で売りたいのに100円、200円で売られていると。

もうそういったことですごく心配されているんです。それを、もう少し先の話になるかも分かりませんが、これなんか聞き取りしてますよね、勉強してますよね、道の駅に関して。それで、そういうこともちょっと聞いてくれはったらいいます、この価格のことを。

家庭菜園的な農産物と専業農家の出荷物をどのように是正し、双方が納得できる価格帯を実現するのかお伺いします、というのが最後の質問だったんです。それ、もう言ってしまった、私が。すみません。

最後に、道の駅は単なる直売所ではない。地域の農業振興と観光発信の拠点となります。農家と町、消費者がともに満足できる仕組みづくりを進めていただくよう切にお願いして、才協明美、今期最後の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（永並 啓君）

以上で、才協明美議員の一般質問を終わります。

この際、暫時休憩いたします。

再開は2時といたします。

（午後1時44分 休憩）

（午後2時00分 再開）

○議長（永並 啓君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第2「第43号議案から第51号議案まで及び第1号認定から第6号認定まで」を議題といたします。

これに対する総括質疑を行います。

質疑内容は、それぞれ各常任委員会及び決算特別委員会に付託いたしますので、大綱のみお願いいたします。

なお、御承知ではございますが、質疑は議題になっている事件に対して行われるものでありますから、現に議題になっていないことを聞くことができない、このように規定されておりますので、その点十分御協力いただきますようお願い申し上げます。

初めに、第43号議案から第51号議案までの9件に対する質疑を行います。

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

6番・管野英美子でございます。

総括質疑をさせていただきます。

第50号議案、令和7年度一般会計補正予算（第5回）の件です。

14ページの民生費、児童福祉費、育成室運営費の留守家庭児童育成室管理事業の業務委託料112万7,000円です。利用者数の増とのことですが、業務委託料とは何なのか。支援員が不足する場合は補助事業を委託すると予算の説明書に書かれてありますが、当初予算143万6,000円、この大幅な増額はどのような状況ですか。

2点目は、15ページの衛生費、保健衛生費、予防費、予防接種推進事業の826万9,000円。带状疱疹ワクチン接種とのことですが、当初予算は僅か210万5,000円。個人への補助があるのは5年に1回、1回だけのラストチャンス。生ワクチン1回接種4,500円、組換えワクチン2回接種、1回1万1,000円の2万2,000円。当初予算に比べ随分な増額です。どのような状況ですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

議員お尋ねの留守家庭児童育成室管理事業における業務委託料の増の要因でございます。

この留守家庭児童育成室管理事業の業務委託料につきましては、留守家庭児童室の支援の補助員としてシルバー人材センターに、業務委託という形で補助員としての業務をお願いするものでございます。そこで、当初見込んでおりました予算に比べまして利用者数が増になったこと、それから職員の数が当初見込みより少なかったことによりまして今回、補助員としての増の予算を計上するものでございます。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

小森生活福祉部長。

○生活福祉部長（小森 進君）

私のほうからは、衛生費の予防接種推進事業の業務委託の件でございます。

議員にちょっと触れていただいたんですが、今年度から带状疱疹ワクチンの接種をスタートさせております。簡単に言えば、当初の見込みより数が、実績が増えているということなのですが、まず生ワクチンと組換えワクチン、先ほどもございましたが、生ワクチンのほうは自己負担が4,500円、組換えワクチンが1万1,000円の2回接種という形になっています。この割合につきましても、当初では2倍ぐらいかなと思っていたんですが、4月から6月ぐらいを見えますと約4倍程度になってございまして、年度終わるまでを計算しますと、ちょっと不足になっているかなということが発生してございます。

以上です。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6番（管野英美子君）

留守家庭児童育成室の管理事業のことで

すが、先ほどの私の一般質問で、40人に2人がつく、それ以上ついているとのことでした。

先日、光風台育成室に立ち寄りましたら30人ぐらい子どもがいて、支援員さんが3人とシルバーさんが2人、5人もいらっしゃいました。多く入っていただくということですか。

それとワクチンのほうですけれども、何人分かは常任委員会でもしっかりと提示していただければいいんですけれども、気になるのは当初予算が210万5,000円で、今回826万9,000円と大幅な増額、これは見込み違いと言ったら失礼ですけれども、そのようなことがあったんですか。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

先ほどの議員の御質問にありました、人員配置と業務委託料の関係でございます。

申し上げましたとおり、基準につきましてはおおむね40人に2人、それ以上の配置をしているというところでございます。一概に何人の場合は何人というふうに決めておるのではなくて、そのときの状況、例えば晴れていれば運動場に行く子どもさんもいらっしゃれば、中で生活をされるお子様もいらっしゃる、その場合にはやはり両方にそれぞれ人員を配置する必要がある等、そういう形になったりしますので、その時々状況に応じまして支援員さんと協議の上、人員を決めているところでございます。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

小森生活福祉部長。

○生活福祉部長（小森 進君）

お答えいたします。

端的に言えば、ちょっと読みが間違っていたのかなとも思うんですが、この業務委託料の中に、このワクチンだけではなくてほかのワクチンも一緒にございます。その全体のバランスを見ながら予算を決めているということもございますので、思っていたより多かったのかなというのは感じておりますが、ちょっとお答えになっていないかもしれませんが、そのような感じになっております。

以上です。

○議長（永並 啓君）

管野英美子議員。

○6 番（管野英美子君）

留守家庭児童育成室のことですが、計画書とかはあるんですか。私も夏休みだったからと思いましたけれども、随分たくさんの方の方がいらっしゃるなと思ったんです。その計画はあるのか伺います。

それからワクチンのことは、何人分かとか詳細はまた常任委員会をお願いします。

○議長（永並 啓君）

この際、暫時休憩いたします。

（午後 2 時 07 分 休憩）

（午後 2 時 08 分 再開）

○議長（永並 啓君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

留守家庭児童育成室の出席予定につきましては、前月にその御予定を保護者の方々からお聞きしているところでございます。ただ、当日急に体調が悪くなったりであるとか、そういった欠席者が多い場合に、議員のおっしゃったような事例になる場合もございます。

○議長（永並 啓君）

ほかに質疑はございませんか。

中川敦司議員。

○4 番（中川敦司君）

中川です。

そうしましたら、まず初めに、第49号議案で、これは豊能町立老人デイサービスセンター条例廃止の件なんですけれども、これ生き生きデイサービスを今後廃止するという、そういうふうな説明を聞いてはおりますけれども、これ結局廃止した後はどんなふうにするのっていう、その辺りをまずお伺いしたいと思います。

あと、第55議案、一般会計補正予算です。17ページです。

小中一貫校施設整備事業として1,040万4,000円ということで、内容的には西地域のスクールバスを購入するという、そういう費用ということで、その1台が何人乗りかっていったら29人乗りというふうに聞いておりましたけれども、この内容についてお伺いします。

今回、西地域、新光風台の方かな、子どもさん対応でスクールバスをというようなことになってるんかと思っておりますけれども、西地域でスクールバスを導入するというふうなことになった場合、じゃあ東地域はどうなんやみたいな、その辺りの心配はないのかどうか、その辺りをお伺いしたいと思います。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

小森生活福祉部長。

○生活福祉部長（小森 進君）

お答えいたします。

まず1点目にいただきました、私ども町立のデイサービスセンターの件でございます。後の利用をどうするかというお尋ねだったと思います。今後につきましては、西地区の公共施設の再編の中で検討してまいりたいと思ってございます。

以上です。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

スクールバスの検討につきましては、西地区の通学距離といたしましては、法令上の規定で小学生4キロ、中学生6キロというふうに定められており、基本的には西地区の中では、今度の新しいとよの西学園に通う際にはそのキロ数内に収まっているというふうに考えております。

ただ、新光風台地区におきましては、今まで光風台小学校から今度とよの西学園までとなる旧吉川中学校の場所、そこまでの通学距離が長くなる。これにつきましては、新光風台地区にお住まいの方では、やはり今までにお家を学校が近いからというふうに購入されている方もいらっしゃるというところで、そういったまちづくりの観点と、あとは低学年についてはやはり気候的な面であるとか、距離的な面で負担が大きいというところで今回、新光風台地区の低学年1・2年生を対象にスクールバスを導入するというふうに考えたところでございます。

○議長（永並 啓君）

東の場合は。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

失礼しました。

東の場合は、今回義務教育学校に整備するということにはなりますが、基本的に今までの距離とはほぼ変わらない、もちろん小学校から中学校までという多少の距離のずれはございますが、基本的に大きく距離が変わらないということで、今回については新光風台地区を対象としたところでございます。

○議長（永並 啓君）

中川敦司議員。

○4番（中川敦司君）

中川です。御答弁ありがとうございます。

そうしましたら今、スクールバスの件で御答弁いただいたので、そちらのほうからまず伺います。

29人乗りというふうに私が初めに申し上げましたけれども、そうしましたら、低学年の方1・2年生というようなことで、人数的には十分この29名であれば対応可能というふうに当然ながら考えておかなあかんと思いますが、その辺りは大丈夫なのか、まず1点目伺います。

あと、生き生きデイサービスのほうですけれども、今後の公共施設再編の中で考えていきたいというふうなことでございましたけれども、そうすると潰すというふうな場合もあるやろうし、その場所そのまんまをまたどっかにお貸しするというか、そういうふうなこともあるというふうなことでよろしいんでしょうか。よろしく願います。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

人数の推計ですが、令和7年3月末時点の豊能町の人口表を参考にしております。そのときにはゼロ歳児から年齢別に地区別に何人住んでいるかという表がございます。その表を参考にいたしますと、来年度の新光風台地区にお住まいの1・2年生の数が24人、それ以降、24人から多少増減はありますが、今のところ24人というところで、ゼロ歳児までしか推計は今のところできないんですけれども、29人乗りでも乗れるというふうに判断をして今回購入を決めたところでございます。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

大西政策監。

○政策監（大西隆樹君）

生き生きデイサービスの後の利用ということなんですけれども、まだ現在、西地区の公共施設については新しい施設の場所、それから跡地をどのように使うかというのは検討中でございます。その中で総合的に検討していきたいというところで、今の段階ではまだ何もお答えできないというような状況でございます。

○議長（永並 啓君）

中川敦司議員。

○4番（中川敦司君）

御答弁ありがとうございます。

そうしましたら、再びスクールバスの件なんですけれども、該当する人数の方、十分これで収まるよというような御答弁だったんで安心はいたしました。

ただ、低学年の方に乗っていただくというふうな方向になるということだったかと思えますけれども、今後の登校班のいわゆる構成の状態でいきますと、例えば低学年の方がバス通学をするという形になった場合、結局4年生1人だけが登校班で残るという、そういうふうな事例があるみたいなこと住民の方からお伺いしたような事情がありまして、ちょっと質問の中に入れさせていただきました。

そういうふうなことになるような場合は、1人だけいわゆる歩いていくという登校班、そんなことになる可能性もありますけれども、それはそれでもう仕方ないと考えておかなければならないのか、それとも、それやったらもうその4年生も一緒に乗ってもたらどうやねんという、そういうふうな考え方もあるんかと思いますが、その辺りはどのように今後考えていくことになるのか、お伺いいたします。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

先ほど議員がおっしゃったように、基本的に小学校3年生から小学校6年生までは登校班で、1・2年生はスクールバスでっていうふうに今現在予定をしておるところです。

今後、スクールバスをどういう運用にしていこうかということにつきましては現在、開校準備委員会の通学路部会のほうで検討をしております。今現在の班編成がどうなっているか、それが何人ぐらいいらっしゃるかということについても学校のほうから取り寄せまして、今後登校班をどうするかであるとか、スクールバスのほうをどうするかっていうふうな形で考えております。

基本的にはやはりスクールバスのほうは小学校1・2年生というふうに考えておりますが、例えばその小学校4年生の方がお一人になった場合、ほんならほかの登校班に入るのかとか、そういうことにつきましては今後また議論をしていきたいというふうに思っております。

○議長（永並 啓君）

ほかに質疑はございませんか。

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

秋元です。今の補正予算についてお尋ねします。

14ページの上の7の障害者自立支援事業の中の、確かこれシステムの改修という形で説明いただいたんですが、具体的にどのような改修をされるのかということと、その下にある償還金はどういう償還金なのか、なぜここに計上されているのかよく分からないので、その説明をお願いいたします。

続いて、17ページに移ります。

17ページの上にあります、保幼小中一貫

教育推進事業、補助金として豊能町立小学校記念事業補助金ってありますけど、この対象は二つの中学校と三つの小学校ですか。それともどこか1校ですか。ちょっとこの目的と中身が分からないので、説明をお願いします。

それと、その下にありますスクールバスの予算なんですけれども、1,040万4,000円ですが、単純にこれ見て機械器具費9,977万9,000円、これが車両代と考えてよろしいですか。となると、ここには人件費は入っていないという理解をさせていただきますが、よろしくをお願いします。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

小森生活福祉部長。

○生活福祉部長（小森 進君）

お答えいたします。

まず一つ目でした。補正予算書14ページにございます7の障害者自立支援事業と11の障害児福祉事業事務の件でございます。

まず7の12にございます業務委託料でございます。これは、障害福祉サービスを受けていただきましたら、そのサービスごとにサービスコードというのがございます。そのサービスコードに基づいて電子的に請求が行われて私どもに来るという感じになっているんですが、今回、このサービスコードの見直しが一部ございまして、それに伴いましてシステム改修が必要となった経費でございます。

22の償還金につきましては、これについては障害福祉サービス、昨年度の分なんですけれども、この中で更生医療という制度がございまして、この補助金に伴う、補助金をちよっともらい過ぎていた分をお返しするというものでございます。

続きまして、11の障害児福祉事業につきまして、この償還金でございます。こ

れは、児童の障害をお持ちの方に対しての通所事業、デイサービス等なんですけれども、これに伴う補助金につきまして、先ほどと同様にちよっともらい過ぎておりましたので、これをお返しするという感じになってございます。

以上でございます。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

議員御質問にありました、豊能町立小中学校記念事業補助金でございます。これにつきましては、今年度に迎えます東能勢小学校創立150周年及び東能勢中学校創立78周年の記念事業に対して、ふるさと寄附を募集をかけております。ふるさと寄附で納入された寄附金を財源といたしまして、補助金として補正するものでございます。

続きまして、13の小中一貫校施設整備事業の機械器具費がバス代であるかどうかというところですが、これは単純に車両の購入費として考えております。運転手につきましては、今後この予算をお認めいただいた後に、次年度の予算計上を予定として、町の職員として募集をかけていきたいというふうに考えております。

○議長（永並 啓君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

秋元です。

まず、障害者のシステム改修なんですけど、そのコードの変更というのは国ですか。国が変えてきたんですか。幾つぐらいのコード変更があつてこの金額になっているのかという見方なのか、それとも、豊能町の方にこれに対象する障害をお持ちの方が何人いるかという予算なのか、その辺りをちよっとお尋ねします。

それと、スクールバスは分かりました。

1,000万円ということですね、バス代が。

ほかの利用料を幾らにするとか、どのルートを通るとか、そういったことはまだこれからの検討だということはさっきの一般質問で御答弁されていたんですが、車を置く場所というのはもう決められているんですか。駐車場ですね。その質問をします。

まず、これをお願いいたします。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

小森生活福祉部長。

○生活福祉部長（小森 進君）

お答えいたします。

まず、このサービスコードの件なんですけど、これはもう全国共通のコードになりますので、どの自治体にも課せられるものと理解してございます。

それとサービスなんですけど、これはあくまでも私どもお住まいの町の方だけに対応するというよりも、町で障害をお持ちの方が、国が定めてます様々なサービスがございます、通所であったり入所であったり様々なサービス体系がございますが、そのサービスごとにサービスコードというものが振られてますもので、これはだからうちの住民の方がこのサービスだけを利用するからここだけを改修したらいいというものではなくて、全体的ないろいろサービスコードがございまして、障害をお持ちの方がいろんなサービスを受けたときにも対応するということは全部やっぱりシステムを変えないと駄目だということになりますので、そういう理解をしていただければと思ってございます。これは人数による金額ではなくて、システム全体を変えるということです。

以上でございます。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

仙波こども未来部長。

○こども未来部長（仙波英太郎君）

スクールバスをとめる場所でございますが、今現在、新しく整備するとよの西学園の中で置けるかどうかというところについて検討しておるところでございます。

○議長（永並 啓君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

これ参考までに教えていただきたいんですけれども、よくシステム改修が上がってきますね。ということは、町じゃなくて、国なり何かの働きがあってこういう改修をしなきゃいけないんだなという理解でおります。

今回の場合なんですけれども、これはコード変更というのがまず幾つぐらいあったのかなと。私が単純に疑問に思ってますのは、国は何かってシステムの改修をしながら行政に負担をかけてるんじゃないかなという、そういう思いがありますので、ちなみにという質問をさせていただきます。これは本当に必要な改修だなんていうふうなことがもう一つぴんとこないものでして、より便利になるならばそれで結構です。もしやるとしたらお願いいたします。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

小森生活福祉部長。

○生活福祉部長（小森 進君）

お答えいたします。

サービスコードの数につきましては、ちょっと今は持ち合わせておりませんので申し訳ございません。

それと、同じ補正予算書の11ページの歳入のところで、民生費の国庫補助金の2の総合支援事業費の国庫補助金につきまして、私どもの本音といたしましては、やはりし

ないと駄目なことなので全額国に頂きたいところなんですけれども、今回、先ほど申し上げました歳出の半分の額、2分の1が補助される予定になってございます。

○議長（永並 啓君）

ほかに質疑はございませんか。

高尾靖子議員。

○11番（高尾靖子君）

議案書48号議案の22ページです。

下水道条例の一部改正する条例の件ですが、提案理由のところには他の市町村の指定を受けた協定工事店というふうに書いてありますが、これは大阪府外もあるのか、府内の限定されている指定工事店になるのか、そこを確認させてください。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

坂田都市建設部長。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

お答えいたします。

まず、この下水道の指定工事店というのは、その当該市であれば市、町であれば町の、本町であれば豊能町内に在住している指定工事店をその当該市が指定するということです。その他の市というのは、その当該市、例えば大阪府内の何々市がその市内にある指定工事店が使っておる工事店を、その被災状況に応じて、もしそこが問題なければそちらのほうにお声がけして選定してみると、そういった感じになるのかなということです。法令がまだできたばかりですので、今後どうなるかというのは分からない状況です。

ですので、その他府県、例えば何々府、何々県、何々市のところで、そこで使っている指定工事店があればそこも使えるというところ。だから、大阪だけとかそんな関係ないですね。そこが使えるのであれば、我々がその状況を判断して選定し

て使っていくという、そんな形になるかと思います。

○議長（永並 啓君）

高尾靖子議員。

○11番（高尾靖子君）

その場合は、成立したというか、お願いできたときには協定なんかを結ぶような、そういう形になるんでしょうか。それは関係なく行っていただくという、そういうことなんでしょうか。それだけちょっと確認します。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

坂田都市建設部長。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

お答えいたします。

通例の場合であれば、それぞれの市なり町なり村がその工事店をまず指定してから使うことになるんですが、こういう災害、その他非常時の場合についてはそういう協定とかはなく、普通にもう恐らく一般的な工事請負契約でやっていくのではないかなというふうに考えております。

以上です。

○議長（永並 啓君）

ほかに。

永谷幸弘議員。

○7番（永谷幸弘君）

永谷でございます。

第43号議案でございまして、選挙ビラ、選挙ポスターの改定ということで、総務大臣からの通知でこのようになっていると思うんですけども、総務大臣の通知の中身を見ますと、あと選挙はがき等もろもろがあるんですけども、今回この二つになったことについてお伺いいたします。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

入江総務部長。

○総務部長（入江太志君）

お答えいたします。

今回の豊能町の議会議員及び豊能町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例改正の件でございますが、今回公職選挙法施行令の改正に伴って、選挙運動用ビラの作成の公営に関する経費と選挙用ポスターの作成の公営に要する経費の改正をしてございます。

議員御指摘の通常はがきの作成というのは、町の選挙では公営を行わないという対応になってございます。衆議院とか参議院とかいうところはその対象になるんですが、今回ののはがきについては、本町の場合は公営で行わないという対応になっておりますので、今回の改正でしていないということでございます。

○議長（永並 啓君）

永谷幸弘議員。

○7番（永谷幸弘君）

2回目です。

第44号議案ですが、部分休業についてです。これ1点だけ聞きたいんですけれども、有給休暇との併用は可能かどうか、この点について伺いたいします。

○議長（永並 啓君）

この際、暫時休憩いたします。

（午後2時34分 休憩）

（午後2時57分 再開）

○議長（永並 啓君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

入江総務部長。

○総務部長（入江太志君）

お答えいたします。

部分休業と年休の併用の御質問だと思いますが、年間10日を取れる部分につきましては、第2条のところなんです、そこについては年休と併用できるということでご

ざいます。

ただもう一つ、1号部分休業、先ほどの2号部分休業の話なんです、第1号部分休業の、いわゆる今まででしたら初めまたは終わりに取得できたやつが、時間の区切りに関係なくというところにつきましては、ちょっと今調べておりまして、また委員会のほうで答弁させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（永並 啓君）

永谷幸弘議員。

○7番（永谷幸弘君）

最後、3点目です。

第45号議案、豊能町ふるさとづくり基金条例の中で、今回第2条が追記になりまして、いつも私これ特に言ってることなんですけれども、2番の最後に「町長が特に必要と認める事業」ということが書いてます。例えばどういう事業が町長が特別に認めることに該当するのか。もし例が挙げられれば教えてください。

以上でございます。

○議長（永並 啓君）

答弁を求めます。

入江総務部長。

○総務部長（入江太志君）

お答えいたします。

御指摘の、町長が特に必要と認める事業につきましては、これは大きく言いますと、まち・ひと・しごとの寄附の活用 of 事業として適切かどうかというところが判断材料になると思いますが、現在、想定以外でそのような趣旨に合う事業があれば、そういう形で町長が認めるということで運用していきたいと思いますが、基本的にはあまりそれはないのかな、想定はあまりしておらないんですが、この事業の趣旨に合うものがありましたら、これは決裁、伺い定めになると思うんですけれども、そういう形で

対象とするということで対応していきたいと考えてございます。

○議長（永並 啓君）

ほかに質疑はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（永並 啓君）

ないようですので、次に「第1号認定から第6号認定まで」の6件に対する質疑を行います。

時間が要るなら待ちますけど、なさそうですか。

（「なし」の声あり）

○議長（永並 啓君）

ないようですので、これにて総括質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

第1号認定から第6号認定までは、6名の委員をもって構成する決算特別委員会を設置し、また、第43号議案から第51号議案まで及び第1号認定から第6号認定までは、お手元に配付いたしております付託表のとおり各常任委員会及び決算特別委員会にそれぞれ付託の上、審査することにいたします。

これに御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（永並 啓君）

異議なしと認めます。よって、第43号議案から第51号議案まで及び第1号認定から第6号認定までは、お手元に配付いたしております付託表のとおり、各常任委員会及び決算特別委員会にそれぞれ付託の上、審査することに決定いたしました。

ただいま設置いたしました決算特別委員会の委員の選任については、委員会条例第7条の規定により、決算特別委員会に池田忠史議員、寺脇直子議員、管野英美子議員、永谷幸弘議員、小寺正人議員、秋元美智子議員、以上6名をそれぞれ指名したい

と思います。

これに御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（永並 啓君）

異議なしと認めます。よって、ただいま指名いたしました6名の議員を決算特別委員会委員に選任することに決しました。

ただいま選任いたしました決算特別委員会委員の互選により、委員長に永谷幸弘議員、副委員長に小寺正人議員が選出されました。

以上をもちまして、本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれをもって散会いたします。次回は9月11日午後1時より会議を開きます。どうもお疲れさまでした。

散会 午後2時42分

本日の会議に付された事件は次のとおりである。

一般質問

- | | |
|--------|---|
| 第43号議案 | 豊能町議会議員及び豊能町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例改正の件 |
| 第44号議案 | 職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例及び豊能町職員の育児休業等に関する条例改正の件 |
| 第45号議案 | 豊能町ふるさとづくり基金条例改正の件 |
| 第46号議案 | 豊能町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準を定める条例改正の件 |
| 第47号議案 | 豊能町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例改正の件 |
| 第48号議案 | 豊能町下水道条例の一部を改正する条例改正の件 |
| 第49号議案 | 豊能町立老人デイサービスセンター条例廃止の件 |
| 第50号議案 | 令和7年度豊能町一般会計補正予算（第5回）の件 |
| 第51号議案 | 令和7年度豊能町介護保険特別会計事業勘定補正予算（第1回）の件 |
| 第1号認定 | 令和6年度豊能町一般会計歳入歳出決算の認定について |
| 第2号認定 | 令和6年度豊能町国民健康保険特別会計事業勘定歳入歳出決算の認定について |
| 第3号認定 | 令和6年度豊能町国民健康保険特別会計診療所施設勘定歳入歳出決算の認定について |
| 第4号認定 | 令和6年度豊能町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について |
| 第5号認定 | 令和6年度豊能町介護保険特別会計事業勘定歳入歳出決算の認定について |
| 第6号認定 | 令和6年度豊能町下水道事業会計決算の認定について |

以上、会議の次第を記し、これを証するためここに署名する。

令和 年 月 日署名

豊能町議会 議 長

署 名 議 員 7 番

同 9 番